# タイ・日の諺に見る女性の役割

須田ユリ

(5480168722)

チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科

日本語講座・修士課程

2013 年 11 月提出

氏名　　：　　須田ユリ

論文名　　：　　タイ・日の諺に見る女性の役割

主査　　：　　カノックワン・ラオハプラナキット・片桐先生
副査　　：　　萩原孝恵先生

ページ数　：　　84 頁

## 要旨

本研究は、タイ語と日本語の諺を比較することによって、女性に対する認識の違いを明らかにすることが目的である。諺を選んだ理由は、諺にはその民族の伝統的な価値観が凝縮しており、違いを探る手掛かりとなると考えたからである。諺には、類似の金言・格言や慣用句があり、それらの区別は明確ではない。そこで、諺の範囲を民衆がその体験によってみずから得た教訓とし、日本語の諺については成句であることも条件にした。タイ語と日本語の女性についての諺を比較した先行研究は、ひとつしかない。そこで研究方法は、他の女性に関する諺研究が行なっている方法を参考にし、研究を次のとおり行なうこととした。

まず、タイ語と日本語の諺集をそれぞれ 5 冊取り上げ、各諺集に記述された女性に関する諺を収集した。次に収集した諺からタイ語は 3 冊以上、日本語は 4 冊以上に掲載された諺を分析の対象とした。対象とした諺を、妻・女房、嫁、妾、母など 12 項目の社会的立場に分類し、さらに各立場ごとに属性、性格など 5 項目の認識の諸相に分類して、タイ語と日本語の諺の傾向の類似点と相違点を探した。

その結果次のことがわかった。期待される女性の社会的役割は、タイも日本も妻としての役割である。しかし、タイ語の諺は女性を伴侶として注目しているのに対し、日本語の諺では嫁という家族の成員としての立場でも見ているため、夫婦の関係がタイほど浮かび上がってこない。タイ語の諺は個々の女性に焦点をあてているが、日本語の諺は全体として女性を見ている傾向にある。これらは、伝統的な婚姻形態にも一因があると考えられる。したがって、タイと日本の女性は、期待される役割は同じ妻であるが、期待されることに違いがあると考える。

文学部東洋言語学科　　院生の署名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日本語講座　　主査の署名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2013 年度　　副査の署名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

# 目　次

タイ語の音声記号
第1章　はじめに 1
１．１　諺とは何か 1
１．２　タイと日本の諺の現状 2
1.2.1 諺に対する関心 2
1.2.2 タイの諺の様相 3
１．３　諺の定義 5
第2章　先行研究 8
２．１　諺に見る女性の役割 8
2.1.1 日本語の諺に見られる女性の役割 8
2.1.2 タイ語の諺に見られる女性の役割 9
２．２　女性に関する諺のタイ語と日本語の対照研究 9
２．３. 対象とする諺の取り扱い 11
2.3.1 どこから採集するか 11
2.3.2 どのような諺を採集するか 12
2.3.3 諺の持つ意味をどうやって捉えるか 13
第3章　研究方法 15
３．１　諺の採集方法 15
３．２　分析方法 16
3.2.1 社会的立場に分ける 16
3.2.2 認識の諸相に分ける 19
3.2.3 表現方法に着目する 22
第4章　研究結果 24
４．１　社会的立場の分類結果 24
４．２　認識の諸相の分類結果 26
４．３　表現方法 28
4.3.1 比喩の使用状況 28
4.3.2 女性と男性が喩えられている事物 31
4.3.3 女性と一緒に並べて言及する事物 32

第5章　考察 33
５．１　諺数からの考察 33
5.1.1 類似点 33
5.1.2 相違点 34
５．２　表現方法からの考察 36
5.2.1 隠喩 36
5.2.2 諷喩 37
5.2.3 女性が喩えられている事物 41
5.2.4 男性が喩えられている事物 42
5.2.5 女性と一緒に並べて言及する事物 43
５．３　立場ごとの女性の認識 43
5.3.1 女性一般 43
5.3.2 若い女性 47
5.3.3 年配の女性 48
5.3.4 未婚女性 48
5.3.5 既婚女性 50
5.3.6 寡婦 51
5.3.7 むすめ 51
5.3.8 妻・女房 52
5.3.9 妾 55
5.3.10 嫁 55
5.3.11 母 56
５．４　社会背景 57
5.4.1 婚姻形態 57
5.4.2 階層 60
５．５　まとめ 62
第6章　おわりに 63
参考文献・調査資料 65
謝辞 67

## 添付資料の目次

資料1. 女性に関するタイの諺 68

資料2. 女性に関する日本の諺 76

## 図表の目次

表

表1. 諺が持つ女性に関する認識 10

表2. 3～5冊に掲載されている諺の数 16

表3. 女性に対する共通の認識の諸相 20

表4. 立場ごとの諺数 25

表5. 立場ごとの認識の諸相 26

表6. 比喩の使用状況 28

表7. 喩えられている事物 31

図

図1. 慣用句とその周辺 5

図2. 諺と格言・名言の傾向 5

図3. 立場ごとの諺数 25

図4. 認識の諸相の合計数 27

図5. タイ人の三つの世界 35

# タイ語の音声記号

本稿のタイ語の音声記号については、田中(2004)と富田(1987)を参考にして、下記のとおり表記した。

子音一覧

| | 唇音 | 唇歯 | 歯音 | 硬口蓋音 | 軟口蓋音 | 喉音 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 無声有気閉鎖音 | p | | t | c | k | ʔ |
| 無声無気閉鎖音 | ph | | th | ch | kh | |
| 有声閉鎖音 | b | | d | | | |
| 摩擦音 | | f | s | | | |
| 鼻音 | m | | n | | ŋ | |
| 流音 | | | r,l | | | |
| 半母音 | w/oʟ | | | y/iʟ | | |

※語末の半母音は、本稿では - o, - iに統一した。

母音一覧

| | 前舌 | 中舌 | 後舌 |
|---|---|---|---|
| 狭母音 | ɪ,ii | ɯ,ɯɯ | o,oo |
| 半広母音 | e,ee | ə,əə | u,uu |
| 広母音 | ɛ,ɛɛ | a,aa | ɔ,ɔɔ |

声調

| | | |
|---|---|---|
| — | 平声 | mid-tone |
| ＼ | 低声 | low-tone |
| ∧ | 下声 | falling-tone |
| / | 高声 | high-tone |
| ∨ | 上声 | rising-tone |

# 第１章　はじめに

本研究の目的は、タイ語と日本語の諺を比較対照し、両国の諺の類似点と相違点を探ることにより、その背景にある価値観の違いを明らかにすることにある。諺の示唆する内容は多岐にわたるが、本研究では、女性について述べているものを取り上げ、女性の役割がどうであるか考察する。

女性を取り上げる理由は、タイと日本では女性に対する認識が違うのではないかと思われることがあるからである。男女に関する言葉を例にあげて、その違いを見てみよう。日本語で「新郎」と「新婦」にあたるタイ語は、”เจ้าบ่าว”と “เจ้าสาว”である。タイ語で新郎を意味する เจ้าบ่าว のうち、”บ่าว”の意味は、１使用人，召使、２若者，青年(富田 1987：985)である。日本語の「新郎」の「郎」を調べると、１男，男子，若者、２家来，召使(広辞苑第５版:2351)とある。順番は違うが、男性については、類似性があると思われる。そこで「新婦」はどうかというと、タイ語で新婦を意味する”เจ้าสาว”のうち”สาว”の意味は、若い女性(富田 1987)である。新婦の「婦」の意味は、家内を納める女、夫のある女、つま(広辞苑第 5 版:1911)である。また「「婦」は、そもそも「嫁」という意味であった」(広井 1999：121)。「嫁」には夫の家に嫁いだ女性すなわち夫の家に従属している意味合いがある。若い女性 สาว には、従属の意味合いがない。女性に対するこの認識の違いを、諺が示唆するものを比較対照することによって、明らかにしたいというのが、本研究の趣旨である。そこで本章では、まず諺とは何かを考え、それから主にタイを中心に諺の現状についてもふれる。最後に本研究で取り扱う諺の定義を考える。

## １．１　諺とは何か

渡辺(1995：162)は、「ことわざとは、人間や人世、社会や自然の諸事象を批評して、その真実を的確にとらえ、簡潔なことばで表現した言語作品である」と述べている。また、宮地(1985:67)が、諺と格言とは「歴史的・社会的に安定した価値観を持つ成句」であると述べているように、諺は言語作品であるだけでなく、その民族が守り伝えて来た価値観が凝縮されているものである。東西のいろいろな民族が独自の諺を持っていることは、興味深い。外山(1991)は、世界中に諺があるのは、人間には共通する心理があるからであり、諺を手掛かりに人間の普遍的な心を探ることも可能なだけでなく、国や社会、時代に固有の見方を引き出すこともできると述べている。したがって、諺は民族の持つ価値観を探る手掛かりになるものであり、諺を学ぶことによって、その民族の文化を学ぶことができると考えられる。

タイでは、諺をどう捉えているのか。ภาวิตา(1984)は、慣用句や諺は、すて今までのいろいろな時代の人々の生活を反映しており、文化の基盤として伝えられ、人々はそれに従って行動してきたものである。また時代ごとの人々の考え方も含まれており、それは良い

ものとして継承され、今の価値観となっていると述べている。พิมพ์พรรณ (1999)は、諺は大人が経験して学んだことを子どもたちに教え、それが語り継がれて来たものであり、それは基本的な価値観を築き、自分自身への愛情や誇りそして他人を敬う気持ちを育てることに役立つと述べている。また、เอกรัตน์ (2002)は、諺とは信条を教えるものであって、長い間伝えられてきたものであるから、昔からのタイ社会の知恵であると述べている。タイにおいても、諺が民族の価値観を表していると考えているのは、同じである。

しかし、諺は盛衰するという側面もある。外山(1991：4)は「学校教育が普及するにつれて、ことわざのような“耳学問”は知識としての価値を減ずる傾向にある」と述べている。タイでも日本でも、今は諺を使わなくなったという声を聞くことがある。人々は諺に関心を持たなくなったのかどうか、次に諺に対する関心の現状を見る。

## １．２　タイと日本の諺の現状

### 1.2.1 諺に対する関心

諺に対する関心の現状を見ると、日本では、2008 年文部科学省が改訂した小学校学習指導要領で、3 年生と 4 年生の国語の授業に諺を取り入れるようになっている。また、それと前後して 2007 年にことわざ学会が創立され[1]、2009 年には日本ことわざ文化学会が創立されて[2]おり、諺に関する研究を振興している。書店には各出版社から出版された諺辞典が並んでいるし、小学館が 1982 年に刊行した『故事俗信ことわざ大辞典』を 2012 年に全面的に改訂したように、古くからある辞典は改訂版も作られている。これらのことから、日本では諺に対する関心がまだあると言える。

一方タイの現状というと、タイでも日本と同様に書店に諺辞典が並んでいる。その中には、子供向けの諺集も見られる。また、2012 年にタイの芸術局が *ประชุมสุภาษิตสอนหญิง*(女性に教える諺集)[3]を発行している。その前書きにタイ社会の価値観に従って、女性の行動の基本となる教えとしての諺を集めたものと書いている。そこには、女性に教える諺集や娘に教える諺集など 12 の諺集が収められ、有名な詩人の สุนทรภู่ (スントンプー)が作ったと言われるものもある。

さらに、日常的に諺が使われているのを見聞きすることがある。例えば、国政の場において与党と野党が非難の応酬をするだけで実際には全く動かないことについて、新聞記事の見出しに書かれていた諺は、次の (1) である。

(1)ไก่ เห็น ตีน งู งู เห็น นม ไก่
kài hěn tiin ŋuu ŋuu hěn nom kài
鶏 見る 足 蛇 蛇 見る 乳 鶏

---

[1] http://www.alpha-net.ne.jp/users2/proverbs/(2013. 8.16 検索)

[2] http://www.paremiology-japan.com/syushi.html(2013. 8.16 検索)

[3] ( )内の日本語は、筆者がタイ語を翻訳したもの。以降出典または翻訳者名の明記のないタイ語の日本語訳は、筆者が翻訳したものである。

鶏は蛇の足が見え、蛇は鶏の乳が見える

意味：互いに相手の素性、秘密手のうちを見透かしている。（富田 1987：240）

未婚の母となった女優と彼女の交際相手と目される俳優との間で、俳優が父親であることを否定したために起こった騒動の時に、女優に金銭的な支援をしたことについてインタビューを受けた別の男性俳優は、女性の弱い立場を説明するために(2)の諺を使った。

(2)ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร
chaai khâaoplùak yǐŋ khâaosǎan
男 籾 女 白米
男は籾で、女は白米
意味：男はどこへ行っても根を生やすことができるが、女は行動が制限されている。女は男より美しいが、弱いから男は女を守ってやるべきだ。（富田 1987：545）

調味料のコマーシャルで、母親が娘に料理をおいしく作って、夫の愛情を繋ぐことを教えるために言った諺は、(3)である。

(3)เสน่ห์ ปลาย จวัก ผัว รัก จน ตาย
sanèe plaai cawàk phŭa rák con taai
魅力 先 柄杓 夫 愛する まで 死ぬ
柄杓の先の魅力を夫は死ぬまで愛する
意味：女房が匙加減一つで料理をおいしくする魅力を夫は死ぬまで愛すもの。（富田 1987：1842）

ドラマでは夫に妾がいることが発覚して、正妻の意地を見せる場面で、正妻が言ったセリフに次の諺があった。

(4)เสีย ทอง เท่า หัว ไม่ ยอม เสีย ผัว ให้ ใคร
sĭa thɔɔŋ thâo hŭa mâi yɔɔm sĭa phŭa hâi khrai
失う 金 と同じ 頭 ない 認める 失う 夫 あげる 誰か
頭と同じの金を失っても、夫は誰にもあげない

ボスが留守の時に訪れた事務所で、仕事の手を止めて世間話に夢中になったスタッフが楽しそうに言った諺は(5)である。

(5)แมว ไม่ อยู่ หนู ร่า เริง
mɛɛo mâi yùu nŭu râa rəəŋ
猫 ないいる 鼠 陽気
猫がいないと鼠が陽気
意味：監督や上司などがいないと部下は気が楽になって自由に振舞うこと（岩城・斉藤 1998：147）

これらのことから、諺は、まだタイの社会に生きていると考えられる。

### 1.2.2 タイの諺の様相

外山(1991)は、英語の諺と日本語の諺を比較して、英語の諺は理に傾いたものが多いが、日本語の諺はなるべくおもしろい表現に移して、文学的なところを出そうとしており、比喩の幅が広いと述べている。しかし、タイ語の諺は、その日本語の諺と比較しても、さらに比喩の幅が広いと思われる。1.2.1 で日常的に見聞きする例としてあげた諺のように、

日本人には説明を受けないと意味が想像できない諺も多くある。その上これらのタイ語の諺に対応する日本語の諺があるかと探すと、次の(6)のひと組しか見つからない。

(6)a　แมว　ไม่　อยู่　หนู　ร่าเริง　((5)の再掲)
mɛɛo　mâi yùu　nǔu　râa rəəŋ
猫　ない いる　鼠　陽気
猫がいないと鼠が陽気

b 鬼の居ぬ間に洗濯
意味：気兼ねする人やこわい人のいない間に、したいことをしたり、息抜きしたりすること。この場合の「洗濯」は命の洗濯、すなわち息抜きのこと。(三省堂 2007:85)

富田(1987)と岩城・斉藤（1998）は、日本語に対応する諺がある場合はそれを併記しているが、前述（6)の“แมวไม่อยู่ หนูร่าเริง　(猫がいないと鼠が陽気)”以外は、併記された諺がない。また、岩城・斉藤（1998）は、172 件のタイ語の諺を収集しているが、そのうち対応する日本語を掲載している諺は、43 件しかない。外山(1991：4)は、「よその国に対応するようなものが見出されないようなら、そのことわざは、民族、社会に特有な文化をあらわしていることになる」と述べている。そこで、タイ語の諺が持つ日本語にはない発想や表現方法には、タイ特有の文化があると考えられる。

しかし、*ประชุมสุภาษิตสอนหญิง*(女性に教える諺集)に集められている諺は、前述した比喩に富む諺とは違い、次の(7)(8)のような女性が守るべき行儀作法や心得を説く諺である。

(7)แต่ง　ตน ให้　ผัว　รัก　(p. 16)
tɛ̀ɛŋ ton hâi　phǔa rák
装う　自分 させる 夫 愛する
夫に愛されるよう装え

(8)อย่า มัก　กิน ก่อน　ผัว (p. 17)
yàa mák kin kɔ̀ɔn phǔa
しないで　たいてい　食べる　先に　夫
夫より先に食べてはいけない

それでは、男性に教える諺集はあるのかというと、仏教の教えとしての心がけを男性に教える諺集はあるが、日常生活の行動規範としての行儀作法や心得を教える諺集は、見つからない。そこで女性は一方的に行儀作法や心得を強いられていたのかというと、市販の諺集には女性側が「女性に教える諺集」の教えにおとなしく従っていただけではない女性像を示す次の(9)と(10)のような諺がある。

(9)สาม วัน　จาก นารี　เป็น อื่น
sǎam wan càak naarii pen ʔùɯn
3　日　から離れる　女性　である　他の
女性から 3 日離れたら　他のものである

(10)แม่ รี　แม่　แรด
mɛ̂ɛ rii mɛ̂ɛ rɛ̂ɛt
女　先が細くなる　女　サイ
意味：何にでも出しゃばる女(富田 1987:1410)

タイの諺から見えるタイの女性は、一つの形に納まっておらず、興味深い。

そこで本研究では、女性に対する認識を示す諺を対象として、タイ語と日本語を比較対照する。それぞれの社会で女性がどのように見られているか、あるいは女性がどのようなことを言っているかを知ることによって、両国における女性に対する認識の特徴を明らかにし、その特徴から推測できる社会における女性の役割を考える。

本研究でいう役割とは、大辞林第3版の説明に従って、「集団内の地位に応じて期待され，またその地位にあるものによって学習される行動様式。社会的役割」とする。すなわち日本とタイの社会においては、女性がどのような地位にあり、期待されていたことは何かということについて考察する。

### １．３　諺の定義

本研究で扱う諺とはどのようなものか、諺の定義を考える。日本語には諺と似た表現の慣用句、格言・金言がある。それらの表現とどう区別するのか。宮地(1985)は、慣用句と諺の違いについて図１の通り説明している。

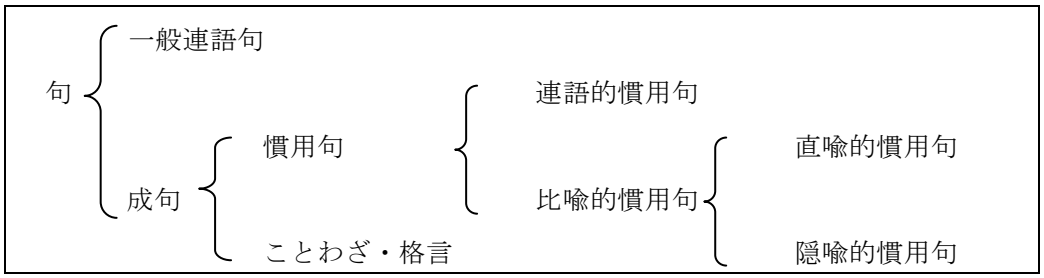


**図１　慣用句とその周辺(宮地 1985：63)**

しかし、慣用句にも「有終の美を飾る」「無用の長物」など教訓的な意味を持つものもあり、慣用句と諺の境界線はあいまいだとも述べている。また、格言との違いについて、宮地(1985:65)は、「格言は教訓的意味を持つものであり、ことわざは事実や事態の一面を簡潔にあらわすものである」と述べている。

北村(1996)は、格言・金言との違いについて図２を示して、諺は比喻によって自由に連想が働き、庶民的でユーモアあふれる世界での体験と密接に関わっていると述べている。

以上のことから、諺と格言や慣用句との厳密な区別は難しいことがわかる。しかし金子(2004)が述べている次の点は、本研究が取り扱う諺を考える上で、重要なポイントである。

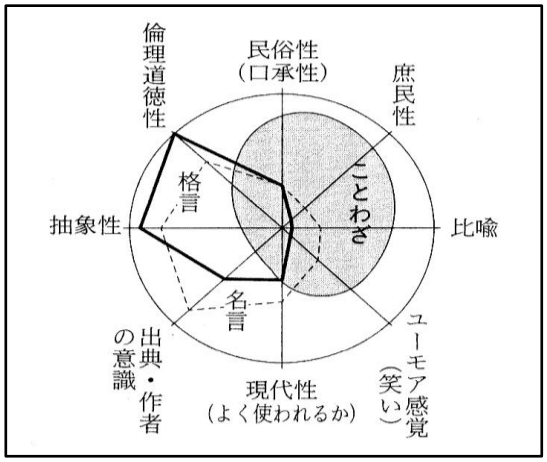


**図２　諺と格言・名言の傾向　(北村 1996：49)**

金言・格言は名高い偉人傑士と呼ばれるような人が残した言であるが、諺は、誰の言というようなものではなく、民衆の中から生まれ出たものである。諺にも教訓の汲み取れるものが多いが、それは上から民衆に垂れられる教訓ではなく、民衆がその体験によってみずから得た教訓である。

したがって、本研究で取り扱う諺は、民衆がその体験によって得た何らかの価値観を示していれば、教訓的でなくてもよいと考える。

一方タイ語で諺に近い表現にあたるものに次の 3 種類の表現がある。สภาษิต(スパーシット)， คำพังเพย(カムパングプーイ)，สำนวน(サムヌアン)である。ราชบัณฑิตยสถาน(タイ王立学士院）が発行している辞書を引くと、次の通り説明が載っている。[4]

สุภาษิต(スパーシット)長く語り継がれてきた語句またはメッセージで、教訓的な意味を持っている。(原文 p. 1206)

คำพังเพย(カムパングプーイ) 長く語り継がれてきた語句またはメッセージで、文脈によって変わる言葉の意味が正しく意味が理解できるよう中立的な立場で語られている。(原文 p. 779)

สำนวน(サムヌアン)長く語り継がれてきた語句またはメッセージで、意味がそのままではないか他の意味が隠れている。(原文 p. 1187)

いずれも長く語り継がれてきた語句またはメッセージであることは同じであり、สุภาษิต(スパーシット)が教訓的な意味を持っていること以外は、区別が難しい。

富田(1987)は、タイ語のこの 3 種類の表現の区別について、次のとおり述べている。

「月とスッポン」のような成句、慣用句は สำนวน(サムヌアン)と称す。คำพังเพย(カムパングプーイ）は、世間の事象について冷静に判断、批判、風刺した寸評的な調子の良い成句や短文で、直接には教訓しないものである。สุภาษิต(スパーシット)は、古来伝承の成句、短文で直接教訓または禁止するか、万古不易の真理を表す名言、金言、格言を言う。しかし、これらの語の間には区別がつきかねることもある。

綾部(1990)は、タイの諺の分類について、次のように述べている。

パーシットが本来の意味の諺で、これに「偉大な」という意味の「ス」をつけたものが、スパーシットである。そのほかに仏陀という意味の「プッタ」をつけて、プッタパーシット、「法、徳」の意味の「タンマ」をつけて、タンマパーシット、それに「王」の意味の「ラーチャ」をつけて、ラーチャパーシットなどがあるが、パーシットと名のつくものは、原則として「教え諭し」である。次にカムパングプーイと呼ばれる、必ずしも教え諭しとは限らない、世の中の冷たい現実を嘆いたり、皮肉ったりするものがある。しかし、パーシットとカムパングプーイは必ずしも明確に区別できるものではない。

綾部(1990)は、諺が สุภาษิต(スパーシット)であるとしているが、日本語の格言・金言につ

---

[4] สภาษิต ，คำพังเพย ，สำนวน の説明の日本語は、筆者の訳である。

いてはふれていない。日本語とタイ語の表現を対応させるには、富田(1987)の説明の方が理解しやすい。すなわち、格言に近いものが สุภาษิต(スパーシット)、諺に近いものが คำพังเพย(カムパングプーイ)、慣用句が สำนวน(サムヌアン)に相当すると考えられる。しかし、日本語とタイ語は 100%対応するものではなく、สุภาษิต(スパーシット)には諺にあたるものもあるようである。綾部(1990 : 200)が「タイ語の諺の本にはたいていこれらをいくつか並べてタイトルとしてあり」と述べているように、タイの諺集は、この 3 つの語を書名に並べ、どの諺が สุภาษิต(スパーシット)であり、どれが คำพังเพย(カムパングプーイ)であるという区別を明記していない。したがって諺集に掲載されている諺を สุภาษิต(スパーシット)と คำพังเพย(カムパングプーイ)に分別することは困難である。

ただし、綾部(1990)があげているプッタパーシット、タンマパーシット、ラーチャパーシットなどは明らかに格言である。前述した *ประชุมสุภาษิตสอนหญิง*(女性に教える諺集)に収録されている สุภาษิต(スパーシット)も同様に格言である。民衆の中から生まれたのではなく、意図を持って作られたものであり、金子(2004:4)によるところの「上から民衆に垂れられる教訓」である。人間や人世、社会や自然の諸事象を批評して、その真実を的確にとらえている(渡辺 1995)と言うことは難しいと考える。

また、*ประชุมสุภาษิตสอนหญิง*(女性に教える諺集)は、สุภาษิต(スパーシット)と名づけているが、掲載されている諺集は、คำฉันท์สอนหญิง (女性に教える詩)、 คำกลอนสอนหญิง (女性に教える詩) [5]と題名にあるように、詩の形をとったものであり、諺とは形式的にも異なる。したがって、本研究では、それらに掲載されている諺は取り扱わないことにする。

そこで、本研究で取り扱う諺は、「民衆がその体験によってみずから得た教訓」と言える内容のものを対象とし、日本語の諺については成句を条件とする。タイ語の諺は สุภาษิต(スパーシット)と คำพังเพย(カムパングプーイ)とする。

[5] คำฉันท์ と คำกลอน は、共に詩の一種である。

# 第２章　先行研究

女性に関する諺について取り上げた研究は、一言語の諺に焦点をあてたものや二言語の諺を比較対照したものがある。しかし女性に関する諺について、タイ語と日本語の比較対照をした研究は、筆者が調べた限りでひとつしかない。そこで、本章では、タイ語と日本語の比較をした研究だけでなく、諺に現れる女性の役割という視点からほかの研究も取り上げ、諺収集や分析などの研究方法を見る。女性に関する諺を比較対照した研究では、英語、韓国語、ギリシア語と日本語のそれぞれの対照研究を取り上げる。また一言語の研究では、日本語と韓国語における女性に関する諺のそれぞれの研究も取り上げて、研究結果だけではなく研究の際の諺の取り扱いも見ていく。

## ２．１　諺に見る女性の役割

### 2.1.1 日本語の諺に見られる女性の役割

日本語の諺を対象に男性と女性の扱われ方を調査した渡辺(1995)は、採集した諺には女性を題材にしたものが圧倒的に多く、男性をマイナスに評価したものは極端に少ないが、女性をマイナスに評価・批評したものが多いと述べている。その理由として、日本の社会は男性本位の社会であったために、諺的批評をするのは男性であり、女性に批評の目を向けてきたためと述べている。そして、女性を一般的な女性としてではなく、家の成員である女性として捉える傾向が強いとも述べている。

奥津(1998)は、英語と日本語の諺を取り上げ、女性の地位は東西を問わず低いとしている。日本語は女性が男性に隷属するものであることを述べた諺が多いが、英語の諺が徹底的に女性を攻撃しているのに対し、日本語の場合は女性にも敬意を表していたり、妻を思っていたりする次の(11)と(12)のような諺があると述べている。

(11) 女は国の平らげ (p. 32)

(12) 厭な女房でも去れば三百文損した心地 (p. 33)

金秀眞(2001)は、韓国と日本は、共に男性中心社会に見られる男性優越意識に基づいた女性差別的性向が見られるが、「日本語の諺には、女性の存在価値に対する高い評価をはじめ、女性は縁起の良いもの、妻の大切さや生活力の強さ、女性の嫉妬に対する肯定的認識等を示している表現が相当数現われ、これらの表現を通して女性は家庭内における地位をある程度確保していたことを窺い知ることができる」(p. 48)と述べている。

浮田(1988)は、ギリシア語と日本語の諺を取り上げて、日本語でもギリシア語でも女性を良く言ったものは少ないとしているが、ギリシア語では「自分の妻を打つ者は、自分の頭を打つ」という諺があり、日本語でも次のような女性を良く言った次(13)の諺の例もあると述べている。

(13) 持つべきものは女房(p. 304)

先行研究では、日本の諺の中には、女性に対する好評価を示しているものがあると述べているが、それは全体から見ると一部であって、総体的には女性を低く評価しているという点では共通している。諺から見た日本の女性の地位が高いとは言えないと考える。好評価も(12)と(13)の諺に見られるように対象は妻であり、妻の役割を果たした時に好評価が得られるということである。

### 2.1.2 タイ語の諺に見られる女性の役割

1．2でタイの芸術局から *ประชุมสุภาษิตสอนหญิง*(女性に教える諺集)が発行されていることを述べたが、タイにおける女性に関する諺というテーマの論文は、これらの女性向けの教訓についての研究だけである。一般的な諺で女性を取り上げた研究は、筆者が調べた限りで見つからない。女性向けの教訓についての研究では、女性の地位や役割について、次のような記述がみられる。

พิมพ์พรรณ(1999)は、女性向け教訓の諺の前提に、次のような女性に対する認識があると述べている。すなわち、女性は知識がなく自分自身を養うことができないため、男性に養ってもらわなければならない存在であるということである。したがって、人に愛されるよう努力しなければならない。そして、諺が教える事柄を実践することは、女性自身には重荷であるが、周りの人にとっては快適かつ便利になると述べている。また、ประพันธ์(2012)も、女性は知る権利を持っていなかったため、知識も能力も男性より低いものという男性によって作られた地位に甘んじなければならず、諺は、男性から見た良妻であることを求めていると述べている。พิมพ์พรรณ(1999)と ประพันธ์(2012)は、タイの女性の地位は低く、男性に依存する立場にあるという点で一致している。そして、期待される役割は、人に愛されるよう尽くすこと、良妻であることである。

## ２．２　女性に関する諺のタイ語と日本語の対照研究

前述したように、女性に関する諺についてタイ語と日本語の対照研究をしている先行研究は、筆者が調べた限りで、綾部・ヤムクリンフング(1992)だけである。綾部・ヤムクリンフング(1992)は、女性に関する認識を「その文化が生み、後世に伝えようとするメッセージ」として 9 項目あげており、それに対応する諺をタイ語、日本語の順に並べ、興味深い対照的な特徴がある場合に、比較のコメントをつけている。認識の項目とコメントの有無を表にしたものが、表 1 である。

**表１　諺が持つ女性に関する認識**　（綾部・ヤムクリンフング 1992:224-230,筆者が作表）

| | 女性に関する認識 | コメントの有無 |
|---|---|---|
| 1 | 女の心は頼りない。 | なし |
| 2 | 女は危険で信用ならない。 | あり |
| 3 | 女は予想外に強い。 | なし |
| 4 | 女はあまり思慮深くはない。 | なし |
| 5 | 女はうるさい。 | なし |
| 6 | 女からの発言 | なし |
| 7 | 女に期待されること | あり |
| 8 | 男女の役割の相違 | なし |
| 9 | 結婚したい相手と女房について | あり |

次の記述は、綾部・ヤムクリンフング(1992)のコメントの一部である。

【女は危険で信用ならない。】表１の２

「タイは女は危険で信用ならないという気持ちが強いが、日本は危険というより、強い、うるさい、恐い、利口ではないという見方が多い」(p. 226)

【女に期待されること】表１の７

「女に期待されていたことは日本もタイもほとんど変化がない」(p. 228)

【結婚したい相手と女房について】表１の９

「あまりにもタイと日本の文化があるいは男性が持つ女についての関心がずれていて、ストレートに比較をすることができない」(p. 230)

綾部・ヤムクリンフング(1992)では、表１に示したように女性に関する認識を分類項目として設定し、それに対応した諺を取り上げている。しかし、女性に関する認識を設定した基準については、説明がない。したがって、表１の９項目にはない認識を持つ諺があっても、取り上げない理由は不明確である。例えば、「女は思慮深い」という認識を持つ次の(14)のような諺があるが、ここでは取り上げられていない。

(14) 孟母三遷の教え

意味：子どもの教育のために良い環境を選ぶこと(三省堂 1987:234)

女性の役割を考察する場合、分類項目をどのように立てるかは、結果に影響があると考えられる。また、綾部・ヤムクリンフング(1992)では、諺の採集方法が明確になっていないため、タイ語の諺には、原文を確認できないものもある。さらに女性の認識としてあげているタイ語の諺には、現在では違った意味で理解されているものと、最近の辞典には取り上げられていないものが見られる。そこで、本研究ではあらためて両言語の諺を採集し、内容に従って分類する。採集方法と分類の項目については、ほかの先行研究も参考にする。

## ２．３　対象とする諺の取り扱い

### 2.3.1　どこから採集するか

諺を採集するにあたって、どこからどのような諺を採集するかということは、考察結果に影響を与える重要なことである。まず、諺をどこから採集するか、採集する対象について、先行研究の主な取り扱い方は、次の 1. から 3. の３通りである。

1. 諺辞典を 1 冊取り上げ、そこから女性に関する諺を採集する。

先行研究で採集対象として取り上げられた辞典は、次の通りである。

浮田(1988)の使用辞典:『日本のことわざ』(1982,1983、海燕書房)[6]

金秀眞(2001)の使用辞典:『故事ことわざの辞典』(1986、小学館)

渡辺(1991,1995)の使用辞典:『故事ことわざ辞典』(1956、東京堂出版) 及び『続故事ことわざ辞典』(1958、東京堂出版)[7]

辞典を採用した理由を、金秀眞(2001)は、主に諺を中心に収録しており、事項別に諺索引が設けられ、調べやすいことをあげ、渡辺(1991,1995)は、多く集めることに適した大部の辞典であると述べている。浮田(1988)は、辞典を採用した理由を明確にしていない。

2. 何冊かの諺辞典から採集する。

鄭(2004)は、その理由を次の通り述べている。

i　1 冊の辞典から採集する方法は、どの辞典が適切か判断する客観的基準がない。

ii　収録件数が多いから適切というわけではない。大規模辞典に収録されているごく一部の人しか知らない特殊なものまで対象を拡大するのは、有意味な分析結果が期待できない。

iii　対照研究の場合は、一般によく知られた諺に限定する方が望ましいことも多い。

iv　多数の辞典を照合して平均化すれば、ことわざの重要度に関してかなりの客観性を持った結果が得られる。

3. 母語話者に知っている諺を書き出してもらう。

鄭(2004)は、多くの人が書きだした諺ほど重要度・認知度が高いと評価する方法であると述べている。

---

[6] ㈠評釈,㈡続評釈 1982、㈢評論,㈣概説・講説　1983 の4巻からなっているが、一連のものなので、1冊の辞典とみなした。

[7] 『続故事ことわざ辞典』は、『故事ことわざ辞典』を補完して作成されたものなので、2冊を合わせて、1冊の辞典とみなした。

鄭(2004)は、数多くの諺のうち、どの諺を比較の対象にするかは重要なポイントである。その理由は、導き出したい結果に好都合な例ばかり選んで、意図的に結果を導き出すという循環論に陥る危険性があるからであると述べている。そして、それを避けるために、「異なる言語文化のことわざの対照研究のためには、(中略) 何らかの客観的な手続きによって重み付け、レベル付けを与えられたことわざリストを作成する必要がある」(p. 107)と述べている。そのリストの作成方法として鄭(2004)が提案した方法が、上記の 2. と 3. である。

しかし、3. の方法も問題がある。母語話者のグループによっては、結果に偏りが出ることも考えられる。また、出典を確認できないことも問題である。先行研究の中にも、諺の出典あるいは採集対象が全部または一部明らかになっていないものがある。そのため、言及している諺の存在を第 3 者が確認できない場合が考えられる。採集した諺が意図的であるという批判を避けるためには、出典を明確にし、誰でもその諺を確認できるような対象から採集する方法が望ましいと考える。

本研究では、諺採集の方法として、鄭(2004)の考え方を援用する。また採集過程の客観性も重視するという点で、2. の方法が最も適切であると考える。そこで採集する諺辞典を 5 冊とする。日本語は 1. の方法を取った先行研究があげている 3 冊の辞典に年代が異なる 2 冊を追加し、タイ語はあらたに 5 冊を選択して、諺を採集する。

### 2.3.2　どのような諺を採集するか

次に女性に関する諺としてどのような諺を採集するか、採集の要件について、先行研究では、次の 1. と 2. の 2 種類の考え方が見られる。

1. 「女」という単語の有無に関わらず、女性を意味する内容の諺を採集する。
   (綾部・ヤムクリンフング 1992; 奥津 1998; 金宗澤 1983; 金秀眞 2001; 鄭 2004; 渡辺 1991, 1995)
2. 「女」という単語が使用されている諺を採集する。(浮田 1988)

1. の方法は、女性を植物や動物に喩えて表現している諺や、女性とは明言していないが、その意味するところは女性であるという諺も採集している。例えば、次のような「女」という単語はないが、女性について述べていることは明らかである(15)の諺は、採集の対象になる。

(15) 立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花
　　意味：美しい女性の容姿を形容する（三省堂 2007:258）

しかし、2. の方法の場合は、「女」という単語がある諺だけを採集しているので、こ

の（15)は採集の対象にならない。浮田(1988)は、2.の方法でギリシア語と日本語の諺を比較しているが、日本語の諺では「女」という単語が使用されているのに対し、同じ内容を表しているギリシア語の諺では、「女」が使用されていない場合があると述べている。

タイ語の諺を概観すると、女性を花、草、木、鶏、あるいは台湾ドジョウなど動植物に喩えた諺がある。例えば、次の(16)のような諺である。

(16)โค แก่ ชอบ กิน หญ้าอ่อน
khoo kɛ̀ɛ chɔ̂ɔp kin yâa ʔɔ̀ɔn
牛 老いた 好き 食べる 草 若い
若い草を食べるのが好きな老牛
意味：小娘を好む年寄りの男(富田 1987:408)

したがって、「女」という語のある諺だけを採集する方法は、女性に対する認識を示しているのに、採集の対象とはならない諺が出ることも考えられる。そこで本研究では、「女」の単語の有無に関わらず女性を意味する内容の諺を対象とする考え方で、諺を採集する。

### 2.3.3 諺の持つ意味をどうやって捉えるか

先行研究では、次の 1.と 2.の 2 種類の取り扱い方が見られる。

1.二言語で同じような認識を持つ諺を並べ、比較する。(浮田 1988；奥津 1998)

浮田(1988)はギリシア語と日本語、 奥津(1998)は英語と日本語を取り上げている。同じ意味あるいは類似の意味を持った両言語の諺を並べて比較し、その言語の傾向や諺が発生した背景を考察している。

2.あらかじめ設定した項目に分類し、分析する。

(綾部・ヤムクリンフング 1992；金宗澤 1983；金秀眞 2001；渡辺 1991,1995)

綾部・ヤムクリンフング(1992)の分類項目については、２．２ですでに述べているが、そのほかの先行研究がどのような項目に分類したかは、次の通りである。

i 女性の社会における立場によって諺を分類する。(金宗澤 1983； 渡辺 1991,1995)

金宗澤(1983)は、諺を女性一般、嫁と姑、むすめ、妻・女房、妾、寡婦、女、娘（未婚女性)、母、新妻、その他の女性たちの 11 項目に分類して、それぞれの立場の女性について考察している。

渡辺(1995)は、一般的な女性と「家」の成員としての女性に分けており、一般的な女性は、女性に対する認識を、「女の知恵をけなしたもの」、「女の態度・振舞に関するもの」などの項目でさらに分類して、傾向を考察している。また、「家」の成員としての女性は、妻、妾、嫁、姑、小姑、母、むすめに分類しており、諺の数を男性の立場、夫、婿、舅、父、息子などの諺数と比較しながら、傾向を考察している。渡辺(1991)は、「家」

の成員としての女性だけを取り上げたものである。

ⅱ女性の「属性」と女性が備えるべき「性質及び行動」（金秀眞 2001）

金秀眞(2001)は、「属性」と「性質及び行動」の 2 項目に分け、その内容を認識の様相としてさらに分類し、両国で共通する認識の諸相と相違する認識の諸相に分けて比較する方法を取っている。認識の諸相については、第 3 章研究方法で述べる。

金宗澤（1983）は、姑と嫁、本妻と妾のようにその立場においては互いに相対立する性質があるので、それぞれの状況に応じて考察する必要があると述べている。本研究でも女性に対する認識という観点だけで状況の違う女性をひとまとめにして考察するのは、有意味な結果が得られない可能性があると考える。詳細に分析するには、立場に分けた後、さらに認識の諸相に分けることも必要である。認識の諸相として金秀眞(2001)があげている分類項目も参考にして、認識の諸相の項目を考える。

したがって、本研究では、まず社会的な立場に分類し、さらにそれを認識の諸相の項目に分けて、類似点と相違点を見る。また、先行研究では言及していない表現形式の違いについても、そこに相違点がないか考察する。

先行研究において考察された諺に見られる日本の女性の地位は高くはなく、男性に従うことが期待されていると考える。タイにおいても、女性にだけ行動規範を教えるための諺集があり、同様のものが男性にはないということは、女性の地位の低さを表しており、男性にとって都合のよい存在であることが期待されていると考えられる。そのような日本とタイの女性が果たしていた役割に違いがあるのか。本研究では、鄭(2004)が言及している諺採集の客観性という点に配慮しながら、あらためてタイ語と日本語の諺を採集して、内容を分類し、比較対照することによって、両国の女性の役割について明らかにする。また、綾部・ヤムクリンフング(1992)では、言及していない諺の社会背景についても考察する。

# 第３章　研究方法

本章では、まずどこからどのような諺を採集するかについて述べ、次に採集した諺を分析する方法について述べる。

## ３．１　諺の採集方法

本研究では、女性に関する諺をどこから採集するか、その対象については、2.3.1 で述べたとおり何冊かの諺辞典から諺を採集する方法を採用し、日本語とタイ語のそれぞれ 5 冊の諺辞典を対象として採集する。日本語とタイ語の諺辞典は次の通りである。

日本語の諺辞典は、次の 5 冊とする。

A 金子武雄（2004）『日本のことわざ』『続　日本のことわざ』ebook 版[8],

B 三省堂編集所編(1978)『故事ことわざ辞典』三省堂

C 三省堂編集所編(2007)『ことわざ決まり文句辞典』三省堂

D 尚学図書(1986)『故事ことわざの辞典』

E 鈴木棠三編(1992)『故事ことわざ辞典』[9]

タイ語の諺辞典は次の 5 冊である。

A พงษ์จันทร์ ศรัทธา. (บรรณาธิการ). (1975) *.สำนวนไทยและคำพังเพย (สุภาษิต)*

B ยิ่งลักษณ์ งามดี. บรรณาธิการ. (2005) *.สุภาษิต คำพังเพยและสำนวนไทย*

C วดี ชาติอุทิศ. (บรรณาธิการ). (2010) *.๑๗๒๔สำนวนสุภาษิต คำพังเพย .*

D ราชบัณฑิตยสถาน. (บรรณาธิการ) . (2002) *.ภาษิต คำพังเพย สำนวนไทย*

E เอกรัตน์ อุดมพร. (บรรณาธิการ). (2002) *.๒๐๐๐สุภาษิตไทย*

次にどのような諺を採集するかについては、2.3.1 で述べた通り、「女」の単語の有無にかかわらず女性を意味する内容の諺を対象として、諺を採集する。諺に「女」あるいは「妻」、「娘」など女性を示す単語がない場合は、辞典の説明文を参考にし、説明文に

---

[8] 『日本のことわざ』と『続　日本のことわざ』は、ebook 版として発行されたのは 2004 年 11 月であるが、『日本のことわざ』は、社会思想社・現代教養文庫「日本のことわざ」(1969 年 2 月初版)の 1986 年 59 刷、『続　日本のことわざ』は、同文庫「続　日本のことわざ」(1969 年 12 月初版)の 1984 年 6 月 30 刷を、それぞれ底本として作られたものであり、浮田 (1988)が使用した海燕書房のものと同様の諺を収録している。

[9] 『故事ことわざ辞典』は、その序に「本辞典は、昭和 31 年 11 月発行の拙著『故事ことわざ辞典』及び昭和 33 年 11 月出版の『続故事ことわざ辞典』を基礎として、これに新収の資料を補って成ったものである」と述べている通り、渡辺(1991,1995)が使用した『故事ことわざ辞典』及び『続故事ことわざ辞典』の改訂版というべきものである。

女性を示す言葉のある諺を採集する。

採集した諺から、分析の対象とする諺を抽出する要件であるが、日本語は 4 冊以上に掲載されている諺、タイ語は 3 冊以上に掲載されている諺を取り上げることにする。冊数をそろえない理由は、両言語で冊数を 3 冊ないし 4 冊に合わせると、分析対象とする諺の数が、タイ語と日本語で大きく異なるからである。表２は、3 冊から 5 冊に掲載されている諺数と、それらの諺数を採集した諺の合計数（添付資料 1 と 2 参照）で割って出した％を、表にしたものである。冊数を合わせるより両言語の諺が同程度の数であることを優先した方がよいと考える。

**表２　３～５冊に掲載されている諺数とその割合**

| | 3 冊 | 4 冊 | 5 冊 |
|---|---|---|---|
| タイ語 | 31 件(54.4%) | 15 件(26.3%) | 4 件(7.0%) |
| 日本語 | 49 件(26.6%) | 34 件 (18.5%) | 9 件(4.9%) |

タイ語 n=57

日本語 n=184

### ３．２　分析方法

採集した諺は、まず社会における立場により分類する。次に立場ごとに認識の諸相の項目に分類し、女性に対する認識という観点から考察する。また表現方法の違いを分析する。

#### 3.2.1 社会的立場に分ける

まず、諺に表現された女性を社会における立場に分類する。2.3.3 で述べたとおり、先行研究では、金宗澤(1983)と渡辺（1991,1995)が社会的立場に分類をしている。渡辺(1991、1995)は、「家」の成員としての立場に着目しているので、小姑、兄嫁、でもどりなどもあり、分類が詳細である。しかし、日本の家族形態とタイの家族形態が一致するかどうか不明であるので、本研究での分類項目は、金宗澤(1983)を参考にする。

金宗澤(1983)は、諺を女性一般、嫁と姑、むすめ、妻・女房、妾、寡婦、女、娘（未婚女性)、母、新妻、その他の女性たちに分類している。家族としての立場が明確であるのは、嫁、姑、むすめ、妻・女房、妾、母、新妻である。この項目を援用するが、新妻は妻・女房に含んで考える。新妻を別項目にするほど、諺数がないからである。寡婦、女、娘（未婚女性)、その他の女性たちは、家族としての立場は不明確である。今回取り上げる諺にも、家族としての立場が不明確な次の(17)(18)のような諺がある。

(17) กระดังงา　ลน ไฟ
kradaŋŋaa　lon fai
鷹爪花　　あぶる 火
火にあぶった鷹爪花

(18) 悪女の深情け

したがって(17)(18)のような諺を分類する項目を作る必要があるが、金宗澤(1983)があげている寡婦、女、娘（未婚女性)、その他の女性たちだけでは、分類基準が明確とは言えない。そこで年齢と婚姻歴の二つの面から、女性の立場を考える。まず、年齢で分類すると、若い女性と年配の女性の 2 種類が考えられる。婚姻歴では、未婚女性、既婚女性、寡婦の 3 種類が考えられる。そこで、本研究での分類項目は、下記の 12 項目にする。

| | | |
|---|---|---|
| ①女性一般 | ⑤既婚女性 | ⑨妾 |
| ②若い女性 | ⑥寡婦 | ⑩嫁 |
| ③年配の女性 | ⑦むすめ | ⑪母 |
| ④未婚女性 | ⑧妻・女房 | ⑫姑 |

分類に際しての基準は、次の 1. から 10. のとおりである。(21)から(32)までの諺または説明文の下線は、分類の判断の根拠を示したものである。

1. ①女性一般に分類する諺は、家族としての立場も、年齢や婚姻歴もわからない、次の(19)と(20)のような諺である。

   (19) ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร ((2)の再掲)
   chaai khâaoplʉ̀ak yǐŋ khâaosǎan
   男 籾 女 白米
   男は籾で、女は白米

   (20) 男は度胸、女は愛嬌

2. ②若い女性と③年配の女性に分類する諺は、(21)が若い女性と(22)が年配の女性というように年齢が想定できる諺である。

   (21) 鬼も<u>十八</u>、番茶も出花

   (22) (梅ぼし<u>婆</u>はしなびておれど)鶯鳴かせたこともある

3. ④未婚女性は、(23)のように女性が男性から結婚相手または交際相手として見られている諺である。

   (23) ดู ช้าง ให้ ดู หน้าหนาว ดู สาว ให้ ดู หน้าร้อน
   duu cʰáaŋ hâi duu nâa nǎao duu sǎao hâi duu nâa rɔ́ɔn
   見る 象 させる 見る 季節 寒い 見る 娘 させる見る 季節 暑い
   象の品定めは冬の季節 <u>娘の品定め</u>は夏の季節

4. ⑤既婚女性は、妻あるいは寡婦の立場の女性かどうか明確ではない場合で、男性との結婚経験または交際経験がある女性を指している(24)のような場合にあたる。

   (24) กระดังงา ลน ไฟ ((17)の再掲)
   kradaŋŋaa lon fai
   鷹爪花 あぶる 火
   火にあぶった鷹爪花
   意味：男を知らぬ生娘よりは<u>既婚</u>の、または<u>男と性生活経験のある女</u>の方が男の扱いがうまい。(富田 1987:78)

5. ⑥寡婦は、日本語の意味は夫に死別した女（広辞苑第 5 版:445）であるが、寡婦にあたるタイ語 ม่าย(หม้าย とも書く)は、配偶者を失った（富田 1987:1377）という意味であり、หม้ายผัวหย่า（離縁された後家　富田 1987:1905）という言葉があることでもわかるように、夫と死別していない場合も含んでいる。そこで、ここでは、日本語の寡婦の意味にしたがって、夫に死別した女に限定することにする。次の(25)のような諺を採集する。

(25)男やもめに蛆がわき、女やもめに花が咲く

6. ⑦むすめは、親との関係において子としての娘であり、次のような諺にあたる。若い女性を意味する娘は、②若い女性に分類する。

(26) 娘三人あれば身代が潰れる

意味：娘を育て上げて嫁入りさせるまでに多額の費用がかかる。（三省堂 2007:355）

7. ⑧妻・女房と⑩嫁の違いについては、次のとおり考える。「妻・女房」の言葉がある諺及び夫と対になって語られる次のような諺は、⑤妻・女房に分類する。

(27)สามี เป็น ช้าง เท้า หน้า ภรรยา เป็น ช้าง เท้า หลัง
sǎamii pen cháaŋ tháo nâa phanrayaa pen cháaŋ tháo lǎŋ
夫 は 象 足 前 妻 は 象 足 後ろ
夫は象の前足、妻は象の後足

(28) 女房の悪いは六十年の不作

また、夫との関係を言及している次のような諺も⑧妻・女房に分類する。

(29)ตื่น ก่อน นอน หลัง
tùɯn kɔ̀ɔn nɔɔn lǎŋ
起きる 先に 寝る 後に
先に起き、後に寝る
意味：夫より先に目を覚まし、後から寝よ（富田 1987:733）

8. ⑩嫁は、渡辺(1995)が、嫁は夫の家へ入る側であり、夫の親族だけでなく夫の家を取り巻く「近所」や「村」のような地域の成員にもなると述べているとおり、嫁という立場を言及する人間は夫以外にもたくさんいることが、妻との違いである。

(30)秋茄子は嫁に食わすな

(30)のような嫁という言葉がある諺は、⑩嫁に分類するが、そのほかにも次のような諺も、嫁の立場を表したものであるから、⑩嫁に分類する。

(31)小姑一人は鬼千匹に当たる

意味：嫁にとって、小姑は一人でも鬼千匹に匹敵するほど厄介で心を苦しめるものである。（三省堂 2007:186）

9. ⑨妾は、「愛人」、「情婦」のように同様の立場を示す呼び方がいろいろあるが、妻がいる男性と一定期間交際あるいは一緒に生活する女性である。

10. ⑪母と⑫姑の違いは、⑪母は子どもに対する親としての母親であり、⑫姑は妻から見

た夫の母親である。本研究では女性に焦点を当てているので、次の(32)のような男性から見た女性の母親は、⑪母に分類する。

(32) ฝน ตก อย่า เชื่อ ดาว มี เมีย สาว อย่า ไว้ใจ แม่ยาย
fǒn tòk yàa chʉ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai mɛ̂ɛyaai
雨 降る しないで 信用 星 持つ 妻 若い女性 しないで 心を許す 岳母
雨は降る。星は信用するな。若い妻を持てば、<u>岳母</u>に心を許すな。

### 3.2.2 認識の諸相に分ける

次に、各立場に分類した諺を、認識の諸相に分けて何に着目しているかを考察する。金秀眞(2001)は、女性の「属性」と女性が備えるべき「性質及び行動」の 2 項目に分類しているが、2 項目では詳細に分類することはできないと考える。そこで、金秀眞(2001)の分類をさらに細分化できないか検討する。

次頁の表３は、金秀眞(2001)が女性に対する共通の認識の諸相をまとめた表である。金秀眞(2001)は、属性、性質、行動についての定義をしていない。そこで本研究では、「属性」を「偶然的な性質とは区別され、物がそれなしには考えられないような本質的な性質」(広辞苑第 5 版:1302) と捉える。例えば、女性の属性として子供を産むということが考えられるが、これは男性にはないことである。他の立場にはなく、その立場にある場合だけに言及されることを「属性」として分類する。性質は属性との違いを明確にするために、「性格」とし、その定義を、「各個人に特有のある程度持続的な感情・意志の面での傾向や性質」(広辞苑第 5 版:1216) とする。また「行動」は、「人間や動物が示す全体的で観察可能な反応や行為」(広辞苑第 5 版:753) として、「性格」とは別の項目とする。

そこで、表３の認識の内容の項目を見ると、属性に分類されている項目の中で嫉妬深いもの、お喋り、陰険なものがあるが、これは個人差により男性にも見られるので、本研究では「性格」と捉える。属性の中で賢い女への蔑視や女の知恵への蔑視をあげた項目があるが、賢さや知恵は「能力」として、項目を作ることができると考える。この場合の「能力」は、知恵だけでなく、「物事をなしえる力」(広辞苑第 5 版:1740) とし、努力で身に付けた技術も含むものとする。また、金秀眞(2001)は、外見について言及した諺を取り上げていないが、本研究では取り上げるので、「外見」の項目も必要である。外見には、容姿のほか、仕草、動作なども含めて考える。したがって、本研究で認識の諸相として分類する項目は、ⓐ属性、ⓑ性格、ⓒ行動、ⓓ能力、ⓔ外見の 5 項目である。

表３　女性に対する共通の認識の諸相　（金秀眞 2001:40）

| | 日本の諺（女性の諺総数（114）） | | 韓国の諺（女性の諺総数（103）） | |
|---|---|---|---|---|
| | 認識の内容の項目 | 用例数 | 認識の内容の項目 | 用例数 |
| 属性 | 家事の担い手（4）<br>家庭内の重要な存在（4）<br>外出の不自由示唆（2）<br>育児の担い手（1）<br>農作業への参加示唆（2） | 13 | 台所仕事の担当者（7）<br>家事の担い手（2）<br>外出の不自由なもの（2）<br>育児の担い手（1）<br>農事への参加示唆（2） | 14 |
| | 付属物及び従属物（10）<br>＜仏教（1）　儒教（4）＞<br>男の慰みもの（1）<br>依存するもの（2） | 13 | 付属物及び従属物（7）<br>男の慰みもの（1） | 8 |
| | 嫉妬深いもの（8）<br>ある程度の嫉妬はよい（2）<br>男を操縦する絶好の道具（1） | 11 | 嫉妬深いもの（3） | 3 |
| | 賢い女への蔑視（1）<br>女の知恵への蔑視（7）<br>妻の意見は影響力の大きいもの（2） | 10 | 賢い女への蔑視（1）<br>愚鈍な女がよく働く（1）<br>女の意見は当てにならない（2） | 4 |
| | お喋り（6）<br>口の軽いもの（2） | 8 | お喋り（4）<br>お喋り女への嘲弄（4）<br>口の軽いもの（3） | 11 |
| | 陰険なもの | 7 | 陰険なもの | 5 |
| | 性的嘲弄の対象物（7）<br>＜若い未婚の女性が対象（6）＞ | 7 | 性的嘲弄の対象物<br>（対象は未婚の若い女性） | 4 |
| | 変わりやすいもの | 3 | 変わりやすいもの | 1 |
| | 物扱い | 4 | 物扱い | 1 |
| | 力の弱いもの | 2 | 力の弱いもの | 1 |
| | 狡賢い存在 | 1 | 狡賢い存在 | 2 |
| 小計 | 11項目 | 79 | 11項目 | 54 |
| 性質及び行動 | 貞節を勧告（2）<br>品行の堅いことを勧告（1）<br>品行は崩れやすいもの（1） | 4 | 女性の貞節<br>＜不貞な女への皮肉（6）<br>貞節な女でいることを勧告（2）<br>間男をすること最大の罪（3）<br>貞淑な女を選好（1）<br>品行は崩れやすいもの（1）＞ | 13 |
| | 出産 | 3 | 出産（10）<br>不妊の女性への嘲弄（1） | 11 |
| | 気の強い女への嘲弄（1）<br>言い張る女への嘲弄（1） | 2 | おとなしい女であることを勧告（1）<br>言い張る女への嘲弄（1） | 2 |
| | 糟糠の妻の大事さ | 2 | 糟糠の妻の大事さ | 1 |
| 小計 | 4項目 | 11 | 4項目 | 27 |
| 総計 | 15項目 | 90 | 15項目 | 81 |

各項目の定義については、次のとおりとする。

ⓐ属性　他の立場では言及されずに、その立場にある場合だけに言及される性質である。個人の性格や能力には関係がないので、個人差がない。

ⓑ性格　各個人に特有の持続的な感情や意志の面での傾向や性質である。個人によって差がある。

ⓒ行動　全体的で観察可能な反応や行為である。目で見える動きであるが、行為に限定し、仕草や動作は含めない。

ⓓ能力　知恵、努力で身に付けた技術など、物事をなしえる力のことである。

ⓔ外見　容姿のほか、仕草、動作なども含めて考える。単に若い、老いているという捉え方は、外見の問題と考える。

認識の諸相の項目に分類する判断は、筆者によるものであるが、その判断は、その諺が女性について何を示唆しているかという、諺の読み手としての視点で行うものである。例として、次の(33)から(35)の諺を考えてみる。

(33)ฝนตก อย่า เชื่อ ดาว มี เมีย สาว อย่าไว้ใจ แม่ยาย ((32)の再掲)
fǒntòk yàa chʉ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai mêɛyaai
雨 降る しないで 信用 星 持つ 妻 若い女性 しないで 心を許す 岳母
雨は降る。星は信用するな。若い妻を持てば、岳母に心を許すな。
意味：星は（省略）、若い美人の女房を持てば、女房の母親は金に目がくらんで、ほかの金持ちの男に再婚させようと企むかもしれない。（富田 1987：1190）

まず、(33)の諺の女房に着目して考える。母親の意志に従ってほかの男と再婚してしまうということは、女房は夫より母親の指示に従って行動するという前提があるということである。その前提が意味するところは、女房のⓐ属性やⓑ性格ではなく、離婚という行動をとるところに着目していると判断し、ⓒ行動に分類するものである。次に、この諺の母親に着目して考える。母親が、娘をほかの金持ちの男と再婚させることができるということは、母親と娘の関係において、母親は娘に対して強い影響力があるという意味であると判断する。それは、母親の個別の性質ではなく、ⓐ属性を言及していると考えられる。したがって、この諺は、⑧妻・女房としてはⓒ行動として分類し、⑪母としてはⓐ属性に分類する。

(34)悪女の深情け（(18)の再掲）
意味：醜い女性は情が深いが、そのような愛情がかえって迷惑である。（三省堂 2007：4）

(34)の諺では、愛情が深いのはⓑ性格であるが、ここで焦点が当てられているのは女性の容貌であり、美しい女であればこの諺は成り立たない。そこで、この諺は女性の外見を言及しているものと判断してⓔ外見に分類する。

(35)女子と小人は養い難し

意味：女子と器量の小さい者は、近づければ無遠慮になり、遠ざければ恨みをいだくので、扱いにくい。(三省堂 2007:225)

(35)の諺は、近づければ無遠慮になり、遠ざければ恨みをいだくことを女子のⓐ属性として述べているように考えられるが、男性である小人も含むので、女性だけの傾向とは言えない。また、個人差もあることであるから、ⓑ性格に分類する。

(36) แตง เถา ตาย

tɛɛŋ thǎo taai

きゅうり 蔓 死ぬ

蔓の枯れたきゅうり

意味:หญิงม่ายที่มีอายุมากที่รอวันตาย(死ぬ日を待っている老寡婦)[10](วดี2010:58)

(36)の諺は、自分では何かをなしとげることはできない老寡婦を意味している。そこで、ⓓ能力に分類する。

以上のように諺が女性について示唆している意味を読み手として判断し、各認識の諸相の 5 項目に分類するものである。

### 3.2.3 表現方法に着目する

表現方法の次の 2 点に着目して、諺を分類する。

1. 比喩を使っている諺と使っていない諺に分ける。使っている場合は、さらに比喩の種類で分類する。秋元(2010)は、比喩の種類を次のとおり分類している。

ⅰ類似に基づく面から分類した比喩

直喩(明喩):「のような」などの表現を添えて、二つのものを直接比較する。

例）私は恋の奴隷のようなものだ　(秋元 2010:119)

隠喩(暗喩):「のような」などの表現を用いずに二つのものを比較する。

例）私は恋の奴隷だ　(秋元 2010:119)

諷喩(寓喩):喩えるものだけを言語化し、喩えられているものを推測させる。

例）奴隷（恋に心を奪われている人を示す）(秋元 2010:119)

ⅱ近接的な関係に基づく面から分類した比喩

提喩：全体で部分を示したり、部分で全体を示したりする。

例）お花見　花＝桜(秋元 2010:119)

換喩：ある事物を表現するのにそれと関係の深いもので置き換える方法

例）鳥居で「神社」、金バッジで「国会議員」を表す。(秋元 2010:119)

ⅲ内容上の転換からの分類

活喩:無性物を生命のあるもののように扱い、また非情物を有情物になぞらえる。

例）不気味な風の音は、犬の遠吠えのようだった　(秋元 2010:119)

---

10 （　）の日本語は筆者が訳したものである

擬人法：人間でないものを人間に喩えて表現する。

例）その大きな岩はずっとそこに座り、村の人々を見ていた。（秋元 2010:119）

本研究では、女性に焦点を当てているので、女性と類似性のあるものに喩えるｉの比喩が対象になると考える。そこで、類似に基づく面から分類した直喩、隠喩、諷喩の 3 種類の比喩に分類する。また、その比喩の中で、女性と男性を何に喩えているかについても着目する。

2. 女性と同じものの例として並べて表現する事物に、何があるか。

(37)女子と小人は養い難し　((35)の再掲)

(37)の諺は、養い難いものとして、女子と小人を並べて表現している。このように、女性と同じものであるとして、例にあげている事物に着目して集める。

以上の社会的立場と認識の諸相に分類した結果と、表現方法の傾向をもとに、タイ語と日本語の諺についてその特徴、類似点と相違点を見ながら、諺に見られる女性の役割について考察する。

# 第４章　研究結果

本章では、まず社会における立場の分類結果を述べ、次に立場ごとの女性に対する認識の諸相についての結果を述べる。さらに表現の方法についてふれる。

## ４．１　社会的立場の分類結果

採集した諺は、日本語が 34 件、タイ語が 31 件である。諺に現れた女性を社会における立場ごとに分類した。分類項目としての立場は、3.2.1 で述べたとおり、次の 12 項目である。

| | | |
|---|---|---|
| ①女性一般 | ⑤既婚女性 | ⑨妾 |
| ②若い女性 | ⑥寡婦 | ⑩嫁 |
| ③年配の女性 | ⑦むすめ[11] | ⑪母 |
| ④未婚女性 | ⑧妻・女房 | ⑫姑 |

採集したタイ語の諺に、複数の立場の女性が登場する諺がある。(38)から(40)の下線が、立場である。(38)は④未婚女性と⑪母、(39)は⑧妻・女房と⑪母、(40)は⑧妻・女房と⑨妾である。(39)は祖母も登場するが、(40)にしか登場せず、祖母の示唆する意味が娘と母の関係の延長にあると考えらるので、本研究では立場として取り上げない。

(38)ดู ช้าง ให้ ดู หาง ดู <u>นาง</u> ให้ ดู <u>แม่</u> ดู ให้ แน่ ให้ ดู ยาย
duu cháaŋ hâi duu hǎaŋ duu naaŋ hâi duu mêɛ duu hâi nêɛ hâi duu yaai
見る 象 させる 見る 尾 見る 娘させる 見る 母 見るさせる 確実にさせる 見る 祖母
象の品定めをするには尻尾を見よ。<u>娘</u>を見るにはその<u>母</u>を見よ。もっと確実に見定めるには祖母を見よ

(39)ฝนตก อย่า เชื่อ ดาว มี <u>เมีย สาว</u> อย่าไว้ใจ <u>แม่ยาย</u> ((32)の再掲)
fǒntòk yàa chʉ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai mêɛyaai
雨 降る しないで 信用 星 持つ 妻 若い女性 しないで 心を許す 岳母
雨は降る。星は信用するな。若い<u>妻</u>を持てば、<u>岳母</u>に心を許すな。

(40)ร้อย<u>ชู้</u> ก็ ไม่ สู้ <u>เมีย</u> คนเดียว
rɔ́ɔi chʉ́u kɔ̂ʔ mâi sûu mia khon diao
百 妾も ない 戦う 妻 ひとり
百人の<u>妾も</u>一人の<u>正妻</u>と戦えない

そこで、(38)から（40）の 3 件の諺を二つの立場に重複して分類したので、立場ごとの諺数の合計数は、タイ語が 3 件増えて 34 件、日本語 34 件となった。

タイ語と日本語の諺を、それぞれ立場ごとに数を集計した結果が表４である。(　)内の％は、タイ語あるいは日本語の諺の合計数 34 件に対する割合である。

[11] ⑦むすめは、子としての娘であり、若い女性や未婚の女性と区別している。

**表４　立場ごとの諺数**

| | 立場 | タイ語 | 日本語 |
|---|---|---|---|
| ① | 女性一般 | 7　(20.5%) | 16　(47.0%) |
| ② | 若い女性 | 0 | 2　(5.9%) |
| ③ | 年配の女性 | 0 | 1　(2.9%) |
| ④ | 未婚女性 | 9　(26.5%) | 0 |
| ⑤ | 既婚女性 | 3　(8.8%) | 0 |
| ⑥ | 寡婦 | 1　(2.9%) | 2　(5.9%) |
| ⑦ | むすめ | 0 | 2　(5.9%) |
| ⑧ | 妻･女房 | 10　(9.4%) | 7　(20.5%) |
| ⑨ | 妾 | 2　(5.9%) | 0 |
| ⑩ | 嫁 | 0 | 3　(8.8%) |
| ⑪ | 母 | 2　(5.9%) | 1　(2.9%) |
| ⑫ | 姑 | 0 | 0 |

タイ語 n=34

日本語 n=34

表４をグラフにしたものが、図３である。

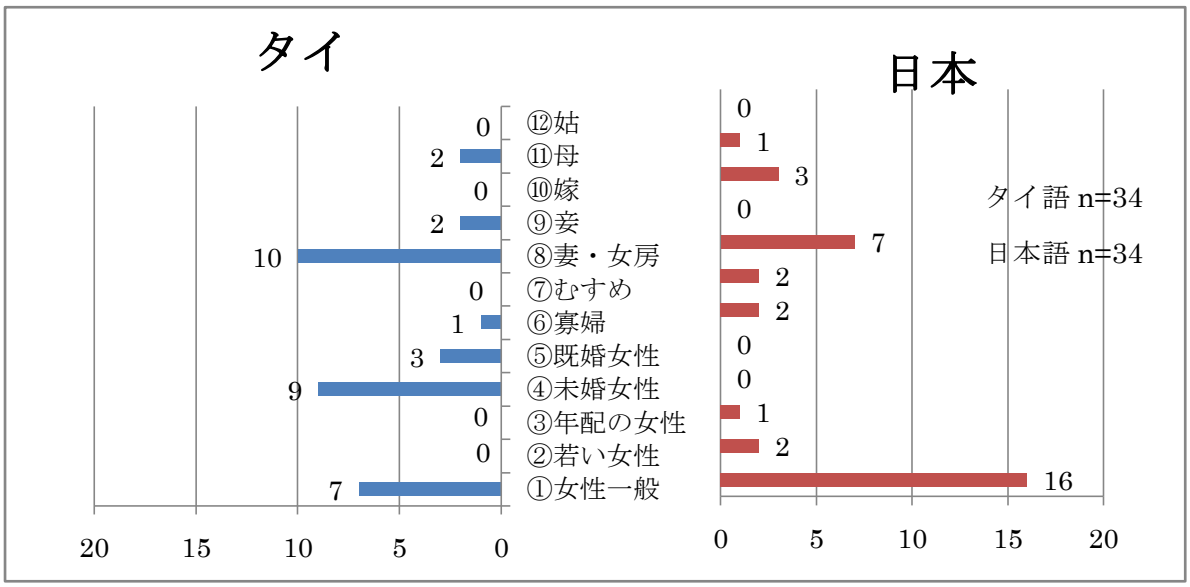


**図３　立場ごとの諺数**

図３により諺に現れる立場をタイ語と日本語で比較した。タイ語と日本語の主な類似点としてあげられるのは、次の２点である。

ⅰ　立場の不明確な①女性一般に関する諺を除くと、⑧妻・女房に関する諺が、タイ語も日本語も一番多い。

ⅱ　⑫姑に言及する諺は、タイ語と日本語の両方にない。

表４と図３によりタイ語と日本語の主な相違点としてあげられるのは、次の４点である。

ⅰ タイ語では、①女性一般に関する諺が全体の約 20%であるが、日本語は、50%弱である。日本語の方が①女性一般についての諺が多く、タイ語の 2 倍以上ある。

ⅱ タイ語は、④未婚女性についての諺が 2 番目に多く 26.5%をしめるが、日本語には④未婚女性についての諺がない。

ⅲ 日本語には、⑩嫁についての諺があるが、タイ語にはない。

ⅳ ①女性一般に関する諺を除いて比較すると、タイ語では、⑧妻・女房と④未婚女性の二つの立場の諺が他より目立って多いが、日本語は、⑧妻・女房だけが多く、ほかの立場は大きな差が見られない。

上記 4 点以外にも、相違点はタイ語にあって日本語にない⑤既婚女性、⑨妾の立場と、日本語にあってタイ語にない②若い女性、③年配の女性、⑦むすめの立場があるが、数が少ないので、ここでは特に取り上げない。

### ４．２　認識の諸相の分類結果

立場ごとに分類した諺をさらに認識の諸相の項目に分けた。認識の諸相の項目は、3.2.2 で述べたとおり、ⓐ属性、ⓑ性格、ⓒ行動、ⓓ能力、ⓔ外見の 5 項目である。
立場ごとに認識の諸相の項目の諺数を示したものが表 5 である。

**表５　立場ごとの認識の諸相**

| | ⓐ属性 | | ⓑ性格 | | ⓒ行動 | | ⓓ能力 | | ⓔ外見 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | タイ | 日本 | タイ | 日本 | タイ | 日本 | タイ | 日本 | タイ | 日本 |
| ①女性一般 | 1 | 2 | 4 | 5 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 6 |
| ②若い女性 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ③年配の女性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ④未婚女性 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| ⑤既婚女性 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥寡婦 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦むすめ | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧妻･女房 | 2 | 1 | 4 | 3 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ⑨妾 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑩嫁 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑪母 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑫姑 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 11 | 8 | 12 | 11 | 5 | 4 | 2 | 2 | 4 | 9 |

表５から、立場ごとの認識の諸相をタイ語と日本語で比較した時、主な類似点としてあげられるのは、次の２点である。

ⅰ ①女性一般では、タイ語と日本語でⓑ性格が多いことが共通している。

ⅱ ⑦むすめ⑧妻・女房、⑨妾のように、立場が明確である諺の方が、タイ語も日本語もⓐ属性を言及する割合が多い。

またタイ語と日本語の主な相違点としてあげられるのは、次の１点である。

ⅰ①女性一般では、日本語はⓔ外見が一番多いが、タイ語では少ない。

同じ立場で比較した場合、相違点は、上記以外にも、次のⅰとⅱのとおりある。

ⅰタイ語にあって日本語にない項目：⑥寡婦と⑧妻・女房のⓓ能力、⑪母のⓐ属性

ⅱ日本語にあってタイ語にない項目：①女性一般のⓓ能力、⑥寡婦のⓑ性格、
⑧妻・女房のⓔ外見、⑪母のⓐ属性

しかし、いずれも数が少ないので、ここでは特に取り上げない。

図４は、認識の諸相の各項目の合計数を図にしたものである。

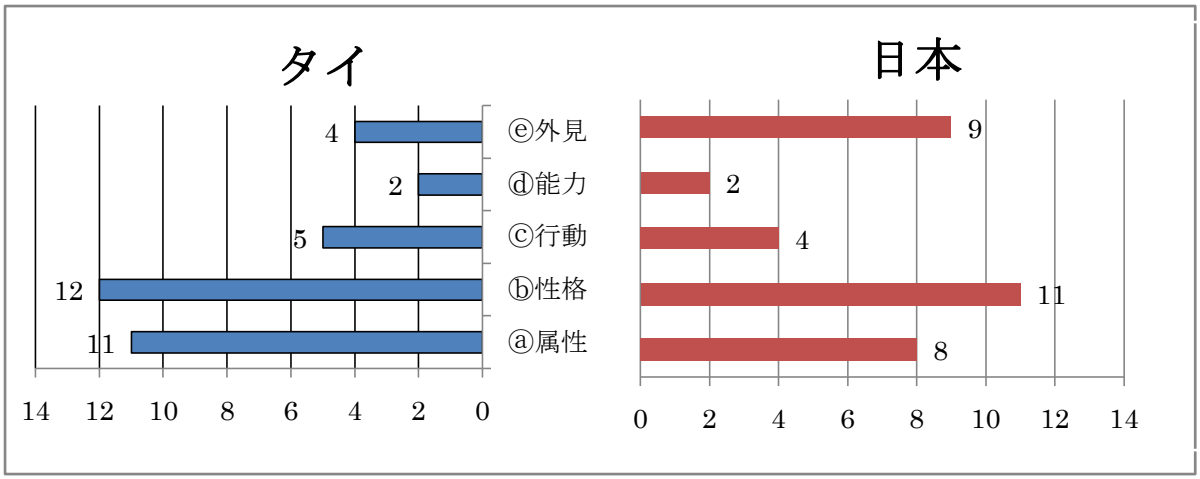


**図４　認識の諸相の合計数**

認識の諸相の各項目の合計数で比較すると、諺が言及する認識の諸相の傾向は、タイ語と日本語で同様の傾向が見られる。ⓐ属性とⓑ性格が多く、ⓒ行動とⓓ能力はⓐ属性やⓑ性格に比較すると少ない。ⓔ外見だけに相違点が見られ、日本語はⓔ外見に言及しているものが２番目に多いが、タイ語は５項目の中では、４番目の数である。

各立場の諺の詳細については、次の第５章で考察を加えながら、述べる。

## ４．３　表現方法

諺の表現方法のうち、比喩に着目して次の２点を調べた。比喩の使用状況、女性及びその相手としての男性が喩えられている事物である。さらに、喩えとして女性と同じようなものとして言及されている事物について調べた。その結果は次のとおりである。

### 4.3.1 比喩の使用状況

タイ語と日本語の諺における比喩の有無、比喩の種類をまとめたものが、表６である。(　)内の％は、タイ語はタイ語諺の合計数 31 件[12]、日本語は日本語の諺合計数 34 件に対する割合である。

**表６　比喩の使用状況**

| 比喻 | | タイ語 | 日本語 |
|---|---|---|---|
| 比喩なし | | 16（52%） | 22（65%） |
| 比喩あり | 直喩 | 0 | 2　（6%） |
| | 隠喩 | 2　（6%） | 5（14.5%） |
| | 諷喩 | 13（42%） | 5（14.5%） |
| | 比喩の合計 | 15（48%） | 12　（35%） |

タイ語 n=31
日本語 n=34

比喩を用いず直接的な表現をしているものが、比喩なしである。比喩がある場合は、3.2.3 で述べたとおり秋元(2012)の分類に従い、比喩の種類を直喩、隠喩、諷喩の 3 種類に分類した。日本語は比喩を使っている諺が 35%であるのに対し、タイ語では 48%であり、タイ語の方が日本語より比喩が多い。

タイ語で使用している比喩は、諷喩が多いことが特徴である。日本語も諷喩の諺はあるが、隠喩と同数である。また、タイ語にはない直喩もある。比喩の種類ごとにどのような諺があるか次に例をあげる。

1.直喩

直喩は、「～のような」などの表現を添えて、二つものを直接比較する方法である。そこで、「～のような」と同様な表現のある諺を直喩に分類した。下線を引いたところが「～のような」と同様の表現である。(41)は「に当たる」(42)は「の如し」である。いずれも日本語の諺で、タイ語の諺はなかった。

[12] タイ語の諺の採集数合計は 31 件である。3 件の諺を二つの立場で重複して数えたため、立場ごとの合計数は、34 件となっている。

(41)小姑一人は鬼千匹に当たる((31)の再掲)

意味：嫁にとって小姑は一人でも鬼千匹に匹敵するほど厄介で心を苦しめるものである。(三省堂 2007:186)

(42)始めは処女の如く終わりは脱兎のごとし

意味：はじめは処女のように弱弱しく振舞って油断させ、のちにすばやく攻撃することのたとえ（三省堂 2007:314)

2.隠喩

隠喩は、喩えを用いながら、表現面には「～のような」の形式を出さない方法である。何について述べているのかという主題と、それに類似したものとしての喩えの両方あるものが隠喩である。本研究の諺の主題は、女性や妻、あるいは女性の相手としての男性、夫などであるが、女性や男性に付随したものの場合もある。この条件に合う諺を隠喩に分類した。タイ語は 2 件であるが、日本語は 5 件あるので、本章では例として 2 件の諺を示し、それ以外の諺は次の第 5 章で示す。

(43)から(46)の下線____が主題、下線～～～～が、喩えを示している。

タイ語は、次の(43)と（44）の 2 件である。

(43)ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร ((2)の再掲)

chaai khâaoplùak yǐŋ khâaosǎan

男 籾 女 白米

男は籾で、女は白米

喩えているもの：籾＝行動の自由， 白米＝地元からは出られない

意味：男はどこへ行っても根を生やす(子どもを産ませる)ことができるが、女は行動範囲が制限されている。女の方が男よりも美しいが弱いから男は女を守ってやるべき。(富田 1987:545)

(44)สามี เป็น ช้าง เท้าหน้า ภรรยา เป็น ช้าง เท้าหลัง ((27)の再掲)

sǎamii pen cháaŋ tháo nâa phanrayaa pen cháaŋ tháo lǎŋ

夫 は 象 足 前 妻 は 象 足 後ろ

夫は象の前足、妻は象の後足

喩えているもの：象の前足＝指し図するもの 象の後足＝従うもの

意味：家庭では夫唱婦随(富田 1987:541)

日本語は、例として次の(45)(46)の諺を示す。

(45)男は松、女は藤

喩えているもの：松＝まっすぐ立つもの 藤＝絡まって伸びるもの

意味：松に藤が絡まって伸びるように、男は女の頼みとなるべきもの。(三省堂 2007:.84)

(46)男やもめに蛆がわき、 女やもめに花が咲く((62)の再掲)

喩えているもの：蛆がわき＝汚い　花が咲く＝男にもてる

意味：男一人世帯はどうしても日常生活や身だしなみが不潔になりがちだが、女一人の世帯はこぎれいにしているので、男たちからもてはやされる。（三省堂 2007:84）

3. 諷喩

諷喩は、何について言っているのか主題を明記せず、喩えるものだけを言語化し、主題を推測させる方法である。諷喩を使った諺は多いので、本章では例としてタイ語と日本語の 2 件ずつの諺を示し、それ以外の諺については、次の第５章で述べる。喩えているものを下線で示し、何がその事物で喩えられているかを述べ、諺全体の意味も示す。タイ語の諺は、次の(47)と(48) を例にあげる。

(47) พบ ไม้ งาม ยาม ขวาน บิ่น
phop mái ŋaam yaam khwǎan bìn
会う 木 美しい 時 斧 欠ける
斧が欠けた時　銘木に　会う

喩えているもの：斧が欠ける＝年を取って身体が不自由になること
銘木＝若い美人

意味：年を取って身体が不自由になって、やっと気に入った若い美人に出くわしたが時すでに遅し(富田 1987:1204)

(48) ม้า ดีด กะโหลก
máa dìit kalòok
馬 蹴とばす椰子の殻
馬が椰子の殻を蹴とばす

喩えているもの：馬が椰子の殻を蹴とばす様子＝女性の動作

意味：女性の動作に慎みがなく、バタンと座ったり、あっちこっちぶつかりながら歩いたりするような人、じゃじゃ馬(富田 1987:1373)

日本語は、次の(49)と(50)を例にあげる。

(49) 鬼も十八、番茶も出花（(21)の再掲）

喩えているもの：鬼＝醜い娘

意味：おいしくない番茶も淹れたては良い香りがするように、女の子は醜い子でも年頃になればそれ相応にきれいに見え、魅力も備わる。（三省堂 1978:39）

(50) 雌鶏歌えば家滅ぶ

喩えているもの：　雌鶏が歌う＝妻が口出しをする。

意味：妻がいろいろと口出しするようになった家は、それが禍となって遂には滅んでしまう。（三省堂 2007:359）

隠喩と諷喩を比較すると、隠喩は主題があるので、諺の意味がわかりやすく、諷喩は主題が明記されていないので、諺が示唆している意味を理解するのが難しいことがわかる。

### 4.3.2　女性と男性が喩えられている事物

比喩に関して、女性とその相手としての男性を何に喩えているのかについて、着目した。女性と男性が喩えられている事物を表にしたものが、表７である。女性も男性もタイ語の方が喩えられる事物の種類が多い。また、「天の花」「路傍の花」以外は、喩えられる事物が具体的である。日本語は「六十年の不作」、「据え膳」など抽象的な表現や「鬼」のように想像上のものがある。

日本語は、男性を何かに喩えている諺は、(46) にあげた隠喩の「男は松、女は藤」に出てくる「松」だけである。松は、松竹梅という言葉もあるように良い意味を持っていると考えられる。タイ語は男性もいろいろな事物に喩えられている。植物は、(43)にあげた隠喩の「男は籾、女は白米」の「籾」だけであるが、動物は種類が多い。

**表７　喩えられている事物**

| | 女性 | | 男性 | |
|---|---|---|---|---|
| | タイ語の諺 | 日本語の諺 | タイ語の諺 | 日本語の諺 |
| 植物 | 白米<br>天の花(2)<br>鷹爪花<br>路傍の花<br>若草<br>(銘)木<br>きゅうり | 藤<br>芍薬<br>牡丹<br>百合 | 籾 | 松 |
| 動物 | (老)鶏<br>タイワンドジョウ<br>象の後足<br>馬<br>サイ | 雌鶏 | 象の前足<br>(老)牛<br>ねずみ<br>ウサギ<br>(のら)犬 | |
| 天体・気象 | 月 | 朝雨 | | |
| その他 | 消し炭 | 鬼(2)<br>六十年の不作<br>据え膳 | | |

注：　表の（　）内の数字は、諺の数を示す。

### 4.3.3 女性と一緒に並べて言及する事物

女性について言及する場合に、女性だけでなく同じような性質のものとして、ほかの事物を例にあげる次のような諺がある。下線が例としてあがっている事物である。

(51) ฝนตก อย่า เชื่อ ดาว มี เมีย สาว อย่าไว้ใจ แม่ยาย ((32)の再掲)
fǒntòk yàa chʉ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai mêɛyaai
雨 降る しないで 信用 星 持つ 妻 若い女性 しないで 心を許す 岳母
雨は降る。星は信用するな。若い妻を持てば、岳母に心を許すな

(52) ช้างสาร งูเห่า ข้าเก่า เมียรัก ไว้ใจ นัก ไม่ ได้
cháaŋsǎan ŋuuhào khâakào miarák wáicai nák mâi dâi
巨象 コブラ 老僕 愛妻 信用 厚い ないできる
巨象、毒蛇、老僕、愛妻は、厚く信用できない。

(53) ดู ช้าง ให้ ดู หาง ดู นาง ให้ ดู แม่ ดู ให้ แน่ ให้ ดู ยาย((38)の再掲)
duu cháaŋ hâi duu hǎaŋ duu naaŋ hâi duu mêɛ duu hâi nêɛ hâi duu yaai
見る 象 させる 見る 尾 見る 娘させる 見る 母 見るさせる 確実に させる 見る 祖母
象の品定めをするには尻尾を見よ。娘を見るにはその母を見よ。もっと確実に見定めたければ祖母を見よ

(54) ดู ช้าง ให้ ดู หน้า หนาว ดู สาว ให้ ดู หน้า ร้อน ((23)の再掲)
duu cháaŋ hâi duu nâa nǎao duu sǎao hâi duu nâa rɔ́ɔn
見る 象 させる 見る 季節 寒い 見る 娘 させる 見る 季節 暑い
象の品定めは冬の季節、娘の品定めは夏の季節

(55) 女子と小人は養い難し ((35)の再掲)

(56) 女房と畳は新しい方がよい

(57) 女房と味噌は古いほどよい

(51)から(57)の諺で、一緒に例としてあげている事物は、次のとおりである。

タイ語：雨と星、巨象、毒蛇、老僕、象(2)[13]

日本語：小人（器量の小さい者）、畳、味噌

タイ語は、女性と一緒に例としてあげられている事物が、象、老僕など社会的に価値があると認められているものであったり、毒蛇のように恐れられている事物であるのに対し、日本語は、器量の小さい者というマイナスイメージの小人であったり、畳や味噌など日常生活の物である。

以上の結果をもって、第５章でタイ語と日本語の諺について考察し、その特徴、類似点と相違点を見ながら、諺に見られる女性の役割について考える。また、タイ語と日本語の相違点を、それぞれの社会背景と関連付けて考察する。

[13] (2)は、2つの諺にあることを示す。

# 第５章　考察

本章では、第４章で示した研究結果をもとに、その結果が示唆している事柄を考察する。まず立場ごと及び認識の諸相の諺数が示していることを考察し、次に表現方法におけるタイ語と日本語の傾向とその違いを考える。また立場ごとの諺について、両言語の諺を対比して考察する。タイ語と日本語の諺に見られる相違点については、それぞれの社会背景と関係があるかどうかを考察する。

## ５．１　諺数からの考察

立場ごとの諺数から、タイ語と日本語の諺について類似点と相違点を考察する。

### 5.1.1 類似点

主な類似点としてあげられることは、次の 3 点である。

1. 期待されている役割は、妻・女房である。

日本語もタイ語も一番諺数が多いのは、⑧妻・女房についての諺である。すなわち、男性が女性に対して、妻としての役割に最も注目しているということである。第２章でも日本語の諺には女性への好評価も見られるという先行研究の結果に対し、好評価の対象はほとんど妻であると述べたが、期待されている女性の役割は、⑧妻・女房であることがここでも明らかである。

2. 認識の諸相の項目では、ⓑ性格について言及するものが一番多い。

ⓑ性格について言及するということは、好評価であればそのように期待しているということであり、それが批判であれば、そうではないようにという期待を表しているということである。女性の役割を男性の期待に応えるように果たすには、まず性格が重要であるということがわかる。

3. 認識の諸相の項目で、ⓐ属性は、タイ語、日本語とも多い。

ⓐ属性は、女性ならあるいはその立場なら誰でも持つ、あるいは持つべきという特有の性質である。しかし、必ずしも本質的性質ばかりとはいえない。男性が主な作り手である諺は、男性が優位な立場であるから、女性に不利な価値観を押し付ける諺がある。例えば次(59)のような諺である。

(58)女は三界に家なし

意味：女は若い時は父に従い、嫁して夫に従い、老いては子に従うものだから、世界に安住できる所がない(三省堂 1978:41)

実際には、妻として長年経てば、女性も家庭の中に居場所ができると思われるから、これは女性の実際を表していると考えられない。(58)の諺は、女性は男性に従うべきものという男性の理想観を語っているものである。また、属性を語る場合は、一般論として語ることが多い。したがって、立場が明確であると、個人に注目した諺よりもその立場の属性を強調した諺ができやすくなる。そこで、タイ語も日本語も、妻、妾、むすめなど立場が明確な諺にⓐ属性が多くなったと考えられる。

### 5.1.2 相違点

主な相違点としてあげられることは、次の 3 点である。

1. タイ語の諺は個々を見ており、日本語の諺は全体として見ている

4.1.1 で立場ごとの諺数を集計した表４に基づき、日本語の方が①女性一般についての諺が多く、タイ語の 2 倍以上あると述べた。女性を一般論として語るということは、特定の女性ではなく全体として見るという傾向が強いということである。それに対し、タイ語では個別の立場に分けて見る方が多い。つまりタイ語では、個々の女性に焦点をあてて見ていると言うことができる。その理由をタイ人の性格に求めると、次のようなタイ人に対する見方がある。

Komin(1998)[14]は、タイ人は自立心を最も大切にしており、個人主義であると述べている。これは他の民族と比較したのではなく、タイ人自身が自分たちを個人主義と考えているということである。そこで、相手を独立した存在として見るという見方を、女性を見る際にも適用していると考えられる。

また、ヘンリー・スチャダー（2000）は、次頁の図５で個人を取り巻くタイ人の 3 つの世界を示している。第 1 の世界が家族である。第 2 の世界は、オフィシャルに付き合う人々からなる世界であり、職場、かかりつけの医者、クラブ、学校で会う人達である。第 3 の世界は、見知らぬ人同士の世界であると述べている。そして、第１と第２の世界では、相手に対する関心があり、気配りをするが、第３の世界では、他人には全く無関心であると述べている。

14　約 2,500 人のタイ人に思いやり、責任感、能力など 23 項目について、大切にしているものは何かというアンケート調査をした研究で、自立心という回答が一番多かった。

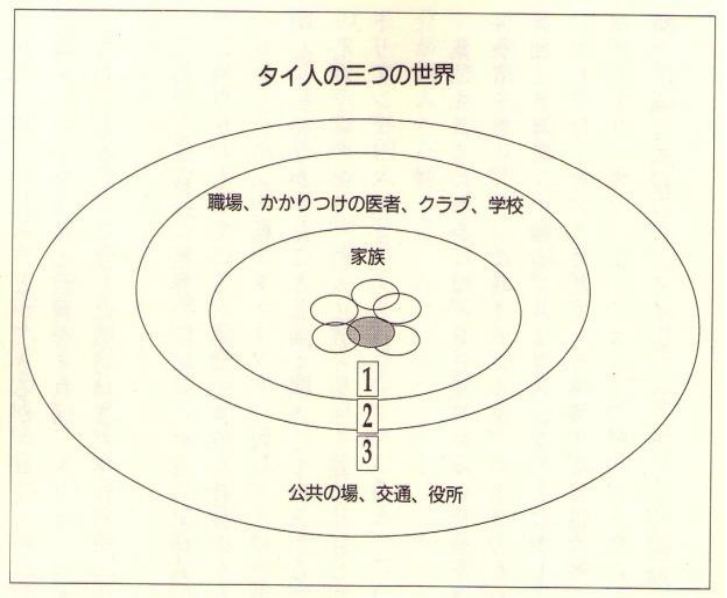


**図５　タイ人の三つの世界（ヘンリー・スチャダー 2000：85）**

諺は何らかの関係があったり、影響を受けたりするからこそ生まれる。関心のない相手は、諺の対象にはならないと考えられる。したがって、タイ語の諺は第３の世界からは生まれてこない。諺は、関心のある第１と第２の世界にいる女性を対象としているということになる。つまり特定の女性を想定しているから、諺にも個別性が生まれると考えられる。女性を全体として見る傾向が少ないのは、個人主義であると同時に、そういったタイ人の人間関係の捉え方も影響していると思われる。

そこで、タイ語の諺は女性を個々として見ており、日本語の諺は女性全体として見ているというのが違いとしてあげられる。

2. タイ語の諺は、伴侶としての女性への関心が高い。

タイ語には、④未婚女性に関する諺があり、⑧妻・女房の数と合わせると、34 件[15]のタイ語の諺のうち 19 件になる。これは諺数全体の半分以上にあたる。④未婚女性とは、結婚・交際相手としての女性である。つまりタイ人男性は、伴侶としての女性について注目していることがわかる。一方日本語には、④未婚女性に関する諺はない。現代ではともかく、諺の世界では、日本人男性は結婚前に、結婚相手や交際相手としての女性について言及する環境になかったと考えられる。

[15] タイ語の諺の採集数合計は 31 件である。二つの立場に重複して数えた諺があるため、立場ごとの合計数は、34 件となっている。

3. 日本語の諺は女性の美醜について注目している。

日本語は、認識の諸相の項目でⓑ性格に次いで２番目に多いのがⓔ外見である。美醜を問題にされることが多いということは、美醜が女性の役割に大きく影響をするということである。

## ５．２　表現の方法からの考察

日本語は、比喩表現を使わない諺が 65%もある。1.2.2 で、外山(1991)が、英語の諺と日本語の諺を比較して、日本語の諺の方が比喩の幅が広いと述べていると紹介したが、タイ語と日本語では、日本語の方が理に傾いて、比喩の幅が狭いようである。4.3.1 で述べたように、日本語は、主題が明記されている直喩や隠喩が半分ある。タイ語は何について述べているか推測しなければわからない諷喩が多い。比喩に関しては、タイ語の方が富んでいると言える。

表現の方法から考察できることを、タイ語と日本語の両方にある隠喩と諷喩に分けて述べる。

### 5.2.1 隠喩

隠喩は、主題と喩えているものを、二つとも明記する表現方法である。タイ語の隠喩は、次の 2 件である。下線____が何について述べているかという主題であり、下線～～～～が喩えである。

(59) ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร ((2)の再掲)
chaai khâaoplùak yǐŋ khâaosǎan
男 籾 女 白米
男は籾で、女は白米
喩えているもの：籾＝行動の自由，　白米＝地元からは出られない
意味：男はどこへ行っても根を生やす(子どもを産ませる)ことができるが、女は行動範囲が制限されている。女の方が男よりも美しいが弱いから男は女を守ってやるべき。(富田 1987:545)

(60) สามี เป็น ช้าง เท้า หน้า ภรรยา เป็น ช้าง เท้า หลัง ((27)の再掲)
sǎamii pen cháaŋ tháo nâa phanrayaa pen cháaŋ tháo lǎŋ
夫 は 象 足 前 妻 は 象 足 後ろ
夫は象の前足、妻は象の後足
喩えているもの：象の前足＝指し図するもの　象の後足＝従うもの
意味：家庭では夫唱婦随(富田 1987:541)

日本語の諺は、(61)から(65)の 5 件である。タイ語と同様下線____のところが、何について述べているかという主題であり、下線～～～～のところが、喩えである。

(61)朝雨は女の腕まくり((45)の再掲)

喩えているもの：女の腕まくり＝大したことがない

意味：朝雨はすぐにやむものだから、女が腕まくりをしても大したことがないように、あまり気にかけることはない。(三省堂 2007:6)

(62)男の目には糸を引け　女の目には鈴を張れ

喩えているもの：糸を引け＝細く真っすぐである，鈴を張れ＝ぱっちりと開く

意味：男の目は真っすぐにきりりとしたのがよく、女の目はぱっちりとしたのがよい。(三省堂 2007:83)

(63)男は松、女は藤((45)の再掲)

喩えているもの：松＝まっすぐ立つもの，藤＝絡まって伸びるもの

意味：松に藤が絡まって伸びるように、男は女の頼みとなるべきもの(三省堂 2007:84)

(64)男やもめに蛆がわき、　女やもめに花が咲く((25)の再掲)

喩えているもの：蛆がわき＝汚い，花が咲く＝男にもてる

意味：男一人世帯はどうしても日常生活や身だしなみが不潔になりがちだが、女一人の世帯はこぎれいにしているので、男たちからもてはやされる。(三省堂 2007:84)

(65)女房の悪いは六十年の不作((28)の再掲)

喩えているもの：六十年の不作＝ひどい不幸

意味：夫の側から見て、女房がひどいと一生不幸である。(三省堂 2007:303)

喩えられている事物は、タイ語も日本語もわかりやすく説明するために使われていると考えられる。タイ語の籾、白米、象の前足、象の後足、日本語の朝雨、松、藤、糸を引く、鈴を張る、蛆がわく、花が咲く、六十年の不作が示す意味は、そのまま喩えている男性や女性に類似性がある。籾などのそれぞれの言葉に特別な意味があるわけではない。隠喩については、タイ語と日本語で大きな違いが見られない。

### 5.2.2.諷喩

諷喩は、喩えるものだけを言語化し、喩えられているものすなわち主題を推測させる方法である。タイ語の諷喩は、次の(66)から(78)の 13 件である。喩えているものを下線で示し、何がその事物で喩えられているかを述べる。諺全体の意味も示す。ただし、喩えているもので諺の意味が明らかな場合は、意味は省略する。

(66)กระต่าย หมาย จันทร์

kratàai　mǎai　can

ウサギ　望む　月

ウサギが月を手に入れたいと望む

喩えているもの：ウサギ＝下賤な男　月＝高貴な女性

意味：下賤な男が高貴な女性を妻にしたいと思う。(富田 1987:87)

(67) ไก่ แก่ แม่ ปลาช่อน

kài kɛ̀ɛ mɛ̂ɛ plaachɔ̂ɔn

鶏 老いた 女 タイワンドジョウ

老鶏とタイワンドジョウの女

喩えているもの：老獪な女、海千山千のしたたかな女

(68) โค แก่ ชอบ กิน หญ้า อ่อน ((16)の再掲)

khoo kɛ̀ɛ chɔ̂ɔp kin yâa ʔɔ̀ɔn

牛 老いた 好き 食べる 草 若い

若草を食べるのが好きな老牛

喩えているもの：　老牛＝年寄りの男　若草＝小娘

意味：小娘を好む年寄りの男(富田 1987: 408)

(69) ถ่าน ไฟ เก่า

thàan fai kào

炭 燃やす 古い

古い燃やしかすの炭

喩えているもの：以前の恋人や別れた夫婦

意味：以前の恋人や別れた夫婦　焼けぼっくいには火が付き易い(富田 1987:771)

(70) ดอกไม้ ริม ทาง

dɔ̀ɔkmái rim thaaŋ

花 端 道路

路傍の花

喩えているもの：男性が容易に接触できる種類の女性

意味：路傍の花には持ち主のないことが多く、道行く人が勝手に手折り色香をめでるとぽいと捨ててかえりみない。そのように男が容易に接触できる種類の女性をいう。(富田 1987:605)

(71) กระดังงา ลน ไฟ ((17)の再掲)

kradaŋŋaa lon fai

鷹爪花 あぶる 火

火であぶった鷹爪花

喩えているもの：あぶった鷹爪花＝既婚の、または男性と交際経験のある女

意味：男を知らぬ生娘よりは既婚の、または男と性生活経験のある女の方が男の扱いがうまい。(富田 1987:78)

(72) ดอก ฟ้า กับ หมา วัด

dɔ̀ɔk fáa kàp mǎa wát

花 天 と 犬 寺

天の花と寺犬

喩えているもの：天の花＝美しくやんごとなき女性　　寺犬＝下賤な男

意味: 美しくやんごとなき女性と下賤な男(富田 1987:604)

(73) แตง เถา ตาย　　((36)の再掲)
tɛɛŋ thǎo taai
きゅうり 蔓 死ぬ
蔓の枯れたきゅうり
喩えているもの：年老いた寡婦

(74) พบ ไม้ งาม ยาม ขวาน บิ่น ((47)の再掲)
phop mái ŋaam yaam khwǎan bìn
会う 木 美しい 時 斧 欠ける
斧が欠けた時　銘木に　会う
喩えているもの：斧が欠ける＝年を取って身体が不自由になること
銘木＝若い美人
意味：年を取って身体が不自由になって、やっと気に入った若い美人に出くわしたが時すでに遅し(富田 1987:1204)

(75) ม้า ดีด กะโหลก　　((48)の再掲)
máa dìit kalòok
馬 蹴とばす椰子の殻
馬が椰子の殻を蹴とばす
喩えているもの：馬が椰子の殻を蹴とばす様子＝女性の動作
意味：女性の動作に慎みがなく、バタンと座ったり、あっちこっちぶつかりながら歩いたりするような人、じゃじゃ馬(富田 1987:1373)

(76) แม่ รี แม่ แรด　　((10)の再掲)
mêɛ rii mêɛ rêɛt
女 先が細くなる 女 サイ
喩えているもの：何にでも出しゃばる女

(77) สอย ดอก ฟ้า
sɔ̌ɔi dɔ̀ɔk fáa
もぎ取る 花 天
天の花を竿でもぎ取ろうとする
喩えているもの：天の花＝身分の高い女性
意味：自分より遙かに身分の高い女性を妻にしようと努める。(富田 1987:1761)

(78) หนู ตก ถังข้าวสาร
nǔu tòk thǎŋkhâaosǎan
鼠 落ちる 米びつ
米びつに落ちた鼠
喩えているもの：鼠＝貧乏な男　　米びつ＝大金持ち
意味：鼠が米びつに落ち込めば居ながらにして食うに困らぬように、貧乏な男が大金持ちの娘と結婚して左うちわで暮らせるようになること。(富田 1987:653)

諷喩は、主題が明記されていないので意味が最もわかりにくい比喩である。何について言っているのか、聞き手は、諺が意味するところを推測しなければならない。(78)を

例にとって、この諺のことを知らない日本人が意味を想像するとどうなるか考えてみよう。まず、鼠が米びつに落ちた状況を想像すると、米という食料があって食べるのには困らないが、米びつからは出られないという状況を思いつく。そこで、自由がないという日本語の「かごの鳥」という意味だろうかと推測する。しかし、この諺は、貧しい男が豊かな生活ができるようになるという意味である。

諺を知らない者が話し手の意味を正しく理解できないのは、喩えられているものが、類似性があると言っても、かなり飛躍しているからである。米びつは、米を保存する壺や箱である。米びつがいっぱいになってはじめて、食料が豊富ということで金持ちとの類似性が生まれるが、そもそも空の米びつでは、大金持ちとの類似性はない。また、鼠も汚い動物というイメージはあるが、貧乏な男との類似性を即座に見つけるのは、難しい。(66) のウサギも、白くて可愛い動物という認識では、この諺を理解することはできない。このウサギには、下賤な男という意味が隠されているということを知っていないと理解できない。(67) の鶏、タイワンドジョウ、(68) の老牛、(70) の路傍の花、(71) の鷹爪花、(72) の寺犬、(73) の蔓の枯れたきゅうりが同様に、類似性に飛躍があるか、そのものの意味だけでなく、そのほかの意味を持っていると考えられる。

したがって、喩えるものと喩えられるものの関係について、話し手と聞き手の間で暗黙の了解がないと意味が伝わらない。つまり諷喩で伝えるということは、話し手と聞き手にすでに了解事項があり、何を意味しているか聞き手がわかるということである。また、喩えるものに飛躍した意味や隠した意味を持たせるということは、公然と言えないことを語っている場合が考えられ、その登場人物は特定の個人であることが考えられる。

そこで、タイ語の諷喩の諺は、一般論というよりも特定の女性やひと組の男女にあてはめて、揶揄することができる個別性のある諺と言うことができると考える。噂話に活躍したであろうと想像できるような諺である。しかし、隠喩は、わかりやすさのために比喩を使っている。したがって、タイ語では、一般論的な諺には隠喩を使い、個別性のある諺には諷喩を使う傾向があるということができると考える。

日本語で諷喩を使っている諺は次の 5 件である。喩えているものを下線で示し、何がその事物で喩えられているか述べる。諺全体の意味も示す。ただし、喩えているもので諺の意味が明らかな場合は、意味は省略する。

(78) (梅ぼし婆はしなびておれど) <u>鶯鳴かせた</u>こともある ((22) の再掲)
喩えているもの：男にもてはやされたこと。
意味：昔は若くて美しくて男にもてはやされた時もあった。(三省堂 2007:53)

(79)鬼も十八、番茶も出花（(21)の再掲）

喩えているもの：鬼＝醜い娘

意味：おいしくない番茶も淹れたては良い香りがするように、女の子は醜い子でも年頃になればそれ相応にきれいに見え、魅力も備わる。(三省堂 1978:39)

(80)据え膳食わぬは男の恥

喩えているもの：据え膳＝女から誘いかけてきた情事

意味：女の方から誘いかけてきた時、それに応じないようでは男として恥だということ。(三省堂 2007:233)

(81)立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花　((15)の再掲)

喩えているもの：美しい女性の、立つ、座る、歩く時の姿

(82)雌鶏歌えば家滅ぶ((50)の再掲)

喩えているもの：　雌鶏が歌う＝妻が口出しをする。

意味：妻がいろいろと口出しするようになった家は、それが禍となって遂には滅んでしまう。(三省堂 2007:359)

日本語の場合は、喩えているものにタイ語ほど飛躍した比喩は少ない。男女の情事に関する(80)だけは、食べられるように用意できた食事である「据え膳」と女性から仕掛けた情事との類似性には飛躍があると言える。(78)(79)(81) はわかりやすい喩えとして使っているものと考えられる。(82)の雌鶏は、マイナスイメージが含まれていることわかるが、それは「家滅ぶ」という文脈によるものであるから、「鶏」に特別な意味があるわけではない。

特定の女性やひと組の男女にあてはめて、批判したり揶揄したりすることができる個別性のある諺としては、(78)と(82)があげられるが、タイ語と比較すると少ない。(79)から(81)は、一般論的なことを述べている諺であり、(79)(81)は、外見に関することである。諷喩であっても、日本語の諺は、タイ語のような個別性のある諺が少ない。

### 5.2.3. 女性が喩えられている事物

タイ語で女性が諷喩の諺で喩えられている事物を植物、動物、その他に分けて見ると次のとおりであった。

植物：天の花、路傍の花、鷹爪花、若草、銘木、きゅうり

動物：鶏、タイワンドジョウ、馬、サイ

その他：月、消し炭

喩えられている事物について詳細に見ると、次のことがわかる。高い位置にあるものすなわち天の花、月は、いずれも高貴な女性を意味している。路傍の花、若草、鷹爪花など、地面に生えているものが、高貴な女性を意味することはない。このことは、タイの社会構造に関係があると考えられるが、それについては５．４で詳しく述べる。一方動物に喩えられているものは、よい意味のものがない。鶏とタイワンドジョウがしたたかな女であり、馬は動作に慎みのない女であり、サイはでしゃばりな女である。したがって、タイの諺には、階層の異なった 2 種類の女性が登場していると考えられる。

次に、日本語の諷喩の諺で喩えられている事物を植物、動物、その他に分けて見ると次のとおりであった。

植物：芍薬、牡丹、百合

動物：鶏

その他：朝雨、鬼、六十年の不作、据え膳

植物は、すべて花であり、観賞用になる美しい種類である。諺も美しい女性を賞讃する場合に使用されている。鶏は、妻であるが男性にとってはよくないモデルである。その他の事物もプラスの意味を持つものはない。日本語の諺では、女性が何かに喩えられる場合は、よい意味に表現されることは少ないということが考えられる。

### 5.2.4. 男性が喩えられている事物

男性が喩えられているのは、日本語では (45)に出てくる松 1 件であったが、タイ語では、男性も次のとおりいろいろな事物に喩えられている。

植物：籾

動物：象の前足、(老)牛、ねずみ、うさぎ、犬、

諷喩に出てくる男性が喩えられている事物は、すべて動物である。(老)牛、ねずみ、うさぎ、犬であり、牛を除き小型の動物であることが一致している。男性が作り手である諺で、男性を小型の動物に喩えるというのは、自らを低く評価するものである。したがってその場合は、その男性を下げて見ていると考えられる。また犬や牛のイメージは、次に述べるとおり日本と違ってよくない。そこで、動物に喩えられている男性は、見下げられるような地位にいる男性であると考えられる。

タイでは、動物についてどういうイメージを持っているか、タイの動物の諺を研究した綾部(1990)は、次のとおり述べている。ただし、馬、サイ、うさぎ、ねずみについては、言及していない。

鶏：　老獪な人物、馬鹿、価値のわからぬ者

牛：卑しい者、弱い人間、

水牛：愚かな者

犬：下層の人間、下らない人間

猫：油断のならないもの

象：大きいもの、偉大なもの、偉い人

虎：恐ろしいもの、危険なもの、大きいもの、勇敢なもの、信用のおけないもの

蛇：敵、危険なもの、信用してはいけないもの、困った問題

綾部(1990)の動物のイメージから、女性に関する諺に登場する男性が動物に喩えられる場合、良いイメージの動物が少ない。諷喩の諺で、隠れた意味を持つ動物を使って表現することが多いのは、男性も低く評価しているからであると考える。

### 5.2.5 女性と一緒に並べて言及する事物

女性と一緒に例としてあげられている事物は、のとおりであった。

タイ語：雨と星、巨象、毒蛇、老僕、象(2)[16]

日本語：小人（器量の小さい者）、畳、味噌

タイ語においては、象、老僕などは社会的に価値があると認められているものである。また、毒蛇は恐れられている動物である。いずれもそこには見下した意味はない。一方日本語は、男性でも小人という馬鹿にした表現であったり、あるいは畳や味噌など日常生活上の些細な事物だったりしている。タイ語は女性に対して、緊張感があり、一目置いているということがわかるが、日本語は女性を軽く見ており、まともに向き合っていないと言える。

## ５．３　立場ごとの女性に対する認識

タイ語と日本語の諺を、立場ごとの認識の諸相の項目別[17]に対比して、傾向を比較対照する。諺の意味と共に諺の示唆する女性像を示す。この女性像は、筆者が読み取った項目分類の根拠である。

### 5.3.1 女性一般

女性の立場が明確でなく、年齢や婚姻歴なども想定できない諺である。

1.属性

【タイ語】

---

[16](2)は、2つの諺にあることを示す。

[17]立場の定義については3.2.1、認識の諸相の項目の定義については3.2.2を参照

(83) ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร ((2)の再掲)

chaai khâaoplʉ̀ak yǐŋ khâaosǎan

男 籾 女 白米

男は籾で、女は白米

意味：男はどこへ行っても根を生やす(子どもを産ませる)ことができるが、女は行動範囲が制限されている。女の方が男よりも美しいが弱いから男は女を守ってやるべき。(富田 1987:545)

女性像：男性よりも美しいが、弱いもの。

【日本語】

(84) 男は松、女は藤 ((45)の再掲)

意味：松に藤が絡まって伸びるように、男は女の頼みとなるべきもの。(三省堂 2007:84)

女性像：男性を頼みとするもの

(85) 女は三界に家なし ((58)の再掲)

意味：女は若い時は父に従い、嫁して夫に従い、老いては子に従うものだから、世界に安住できる所がない。(三省堂 1978:41)

女性像：男性に従うべきもの

タイ語も日本語も男性は、女性の頼みとなるべきであるという点で一致している。日本語の方は、女性は男性に従うべきという(85)のような諺がある。タイ語は、⑧妻・女房には、夫に従うべきという同様の諺があるが、一般論としては現われていない。

2. 性格

【タイ語】

(86) ไก่ แก่ แม่ ปลาช่อน ((67)の再掲)

kài kɛ̀ɛ mɛ̂ɛ plaachɔ̂ɔn

鶏 老いた 女 タイワンドジョウ

意味：老獪な女、海千山千のしたたかな女(富田 1987:239)

女性像：したたかで敵わない

(87) แม่ รี แม่ แรด ((10)の再掲)

mɛ̂ɛ rii mɛ̂ɛ rɛ̂ɛt

女 先が細くなる 女 サイ

意味：意味：何にでも出しゃばる女(富田 1987:1410)

女性像：強くて敵わない

(88) แม่หญิงแม่หญังแม่กระซังหน้าใหญ่

mɛ̂ɛyǐŋ mɛ̂ɛ yǎŋ mɛ̂ɛ krachaŋ nâa yài

女 女 女 口の達者 顔 大きい

意味:口の達者な、出しゃばって引き受ける女(富田 1987:1406)

女性像:強くて敵わない

(89) สาม วัน จาก นารี เป็น อื่น((9)の再掲)

sǎam wan càak naarii pen ʔɯ̀ɯn

3 日 から離れる 女性 である 他の

女性から3日離れたら、他のものである

意味：女心と秋の空(富田 1987:1794)

女性像：気持ちが変わりやすい

【日本語】

(90) 東男に京女

意味：男はたくましい東国の男がよく、女は優しい京都の女がよい。似合いの組合せ(三省堂 2007:9)

女性像：優しくてしとやかなのがよい。

(91) 男は度胸、女は愛嬌((20)の再掲)

意味：男には度胸が、女には愛嬌がまず第一に求められる。(三省堂 2007:83)

女性像：愛嬌があるのがよい

(92) 女三人寄れば姦しい

意味：女はおしゃべりなので三人も集まるとやかましい。(三省堂 2007:93)

女性像：おしゃべりである

(93) 女の髪の毛には大象も繋がる

意味：女の色香が男をひきつけ、男を支配する力が強い。(三省堂 2007:93)

女性象：男を支配する。

(94) 女子と小人は養い難し((35)の再掲)

意味：女子と器量の小さい者は、近づければ無遠慮になり、遠ざければ恨みをいだくので、扱いにくい。(三省堂 2007:225)

女性像：器量が小さくて、物事をわきまえない。

性格について、タイ語は女性のしたたかさを言及する諺が多い。タイ女性の強さが感じられる諺である。日本語は、女性について理想論から非難まで多岐にわたっている。

3. 行動

【タイ語】

(95) ดอกไม้ ริม ทาง ((70)の再掲)

dɔ̀ɔkmái rim thaaŋ

花 端 道路

路傍の花

意味：路傍の花には持ち主のないことが多く、道行く人が勝手に手折り色香をめで

るとぽいと捨ててかえりみない。そのように男が容易に接触できる種類の女性をいう。(富田 1987:605)

女性像：簡単に付き合ったり、別れたりできる。

【日本語】

(96)据え膳食わぬは男の恥　((80)の再掲)

意味：女の方から誘いかけてきた時、それに応じないようでは男として恥だということ(三省堂 2007:233)

女性像：情事を誘いかけるもの

行動の項目では、男性の都合のよい情事の相手という点でタイ語と日本語が共通している。

4.能力

【日本語のみ】

(97)朝雨は女の腕まくり((61)の再掲)

意味：朝の雨はすぐ止むものだから、女が腕まくりをしても大したことがないように、あまり気にかけることはない。(三省堂 2007:6)

女性像：大したことができない

(98)女賢しゅうして牛を売り損なう

意味：女は賢くても、広い視野や大局的な判断に欠けることが多いから、とかく失敗しやすい。(三省堂 1978:41)

女性像：賢いとかえって失敗する。賢くない方がよい。

女性の能力は、大したことがないという点で一致している。

5.外見

【タイ語】

(99)ม้า ดีด กะโหลก　((48)の再掲)

máa dìit kalòok

馬 蹴とばす椰子の殻

椰子の殻を蹴とばす馬

意味：意味：女性の動作に慎みがなく、バタンと座ったり、あっちこっちぶつかりながら歩いたりするような人、じゃじゃ馬(富田 1987: 1373)

女性像：動作はしとやかにするのがよい。

【日本語】

(100)悪女の深情け　((18)の再掲)

意味：醜い女性は情が深いが、そのような愛情がかえって迷惑である。(三省堂 2007:4)

女性像:醜い女とは、深く付き合いたくない。

(101)色の白いは七難隠す

意味:色白の女性は、多少顔形が悪くともそれなりに美しく見える。(三省堂 2007:47)

女性像：色白がよい。

(102)男の目には糸を引け　女の目には鈴を張れ((62)の再掲)

意味：男の目は真っすぐにきりりとしたのがよく、女の目はぱっちりとしたのがよい。(三省堂 2007:83)

女性像：目はぱっちしりしたのがよい。

(103)立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花　((15)の再掲)

意味：美しい女性の容姿の形容(三省堂 2007:258)

女性像：花のように美しいのがよい。

(104)見目は果報の基い

意味：女性にとって、容貌の美しいことは幸福をもたらす。(三省堂 2007: 352)

女性像：容貌が美しくあるべき

(105)目病み女に風邪引き男

意味：眼病を患う女は、そのうるんだ目が色っぽく、風邪を引いて喉に白い布など巻いた男は粋で、魅力的である。(三省堂 2007:359)

女性像：うるんだ目が色っぽい。

タイ語は女性の美醜について言及している諺はなく、(99)も動作を非難しているだけであるが、日本語は肌の色、目の形、うるんだ目等にも言及していて、細かい。

女性一般の諺は、女は男を頼るべきという属性の主張は共通しているが、タイ語は女性の強さ、したたかさが目立ち、日本語は女性を単に論評しているだけという諺が多い。

### 5.3.2 若い女性

女性の立場や婚姻歴が不明で若いということだけ想定できる諺である。

【日本語のみ】

1.性格

(106)始めは処女の如く終わりは脱兎のごとし((42)の再掲)

意味：はじめは弱々しく振舞って油断させ、のちにすばやく攻撃すること。(三省堂 2007:314)

女性像：処女は弱いもの

2.外見

(107)鬼も十八、番茶も出花 ((21)の再掲)

意味：おいしくない番茶も淹れたては良い香りがするように、女の子は醜い子でも年頃になればそれ相応にきれいに見え、魅力も備わる。(三省堂 1978:39)

女性像：若い女性には魅力がある

処女は弱々しいものというイメージと、若い女性は容姿に関わらず魅力があるという主張である。

### 5.3.3 年配の女性

女性の立場や婚姻歴が不明で、年配であるということだけ想定できる諺である。

【日本語のみ】

1.外見

(108)（梅ぼし婆はしなびておれど）鶯鳴かせたこともある（(22)の再掲）

意味：今はこんな年寄りになってしまったが、若い時は美しくて多くの人の心をひきつけたこともある。(三省堂 2007:53)

女性像：若い女性は魅力がある

5.3.2 の 2.と同様、若い女性は魅力があるという主張である。

### 5.3.4 未婚女性

交際相手あるいは結婚相手としての女性ということがわかる諺である。

【タイ語のみ】

1.属性

(109) กระต่าย หมาย จันทร์（(66)の再掲）

kratàai mǎai can

ウサギ　望む　月

ウサギが月を手に入れたいと望む

意味：下賤な男が高貴な女性を妻にしたいと思う。(富田 1987:87)

女性像：身分の高い女性は憧れである

(110) สอย ดอก ฟ้า　（(77)の再掲）

sɔ̌ɔi dɔ̀ɔk fáa

もぎ取る　花　天

天の花を竿でもぎ取ろうとする

意味：自分より遙かに身分の高い女性を妻にしようと努める。(富田 1987:1761)

女性像：身分の高い女性は憧れである

(111) ดอก ฟ้า　กับ　หมา　วัด（(72)の再掲）

dɔ̀ɔk fáa kàp mǎa wát

花　天　と　犬　寺

天の花と寺犬

意味：美しくやんごとなき女性と下賤な男(富田 1987:604)

女性像：身分の高い女性は憧れである

(112) ดู ช้าง ให้ ดู หาง ดู นาง ให้ ดู แม่ ดู ให้ แน่ ให้ ดู ยาย ((38)の再掲)

duu cháaŋ hâi duu hǎaŋ duu naaŋ hâi duu mêɛ duu hâi nêɛ hâi duu yaai

見る 象 させる 見る尾 見る 娘 させる 見る 母 見るさせる 確実にさせる 見る 祖母

象の品定めをするには尻尾を見よ。娘を見るにはその母を見よ。もっと確実に見定めたければ祖母を見よ

女性像：むすめは、母親の影響を受けるものである。

(109)から(111)の諺は、タイの社会の二層性が現われていて、下層階級の男性の憧れの対象になるという上流階級の女性の属性を表していると考えられる。一方(112)の諺は、娘について着目すると、娘は母親の影響を大きく受けるものであるという娘の属性が前提である。

2. 性格

(113) สวย แต่ รูป จูบ ไม่ หอม

sŭai tɛ̀ɛ rûup cùup mâi hɔ̌ɔm

きれい だけ 姿 キス ない 香る

きれいなのは姿だけ キスすりゃ臭い

意味：顔や姿形は美人だが、女性としての品徳に欠ける。(富田 1987:1753)

女性像：外見だけでなく性格も大切

(114) ศึก หน้า นาง

sùk nâa naaŋ

戦い 前 女性

女性の前の戦い

意味：愛する女性の面前で恋仇同士がする戦い(富田 1987:1704)

女性像：男たちを戦わせる。

3. 外見

(115) พบ ไม้ งาม ยาม ขวาน บิ่น ((47)の再掲)

phop mái ŋaam yaam kwǎan bìn

会う 木 美しい 時 斧 欠ける

斧が欠けた時 銘木に 会う

意味：年を取って身体が不自由になって、やっと気に入った若い美人に出くわしたが時すでに遅し。(富田 1987:1204)

女性像：若い女性は魅力がある

(116) โค แก่ ชอบ กิน หญ้า อ่อน ((16)の再掲)

khoo kɛ̀ɛ chɔ̂ɔp kin yâa ʔɔ̀ɔn

牛 老いた 好む 食べる 草 若い

若草を食べるのが好きな老牛

意味：小娘を好む年寄りの男(富田 1987:408)

女性像：若い女性は魅力がある

(117) ดู ช้าง ให้ ดู หน้าหนาว ดู สาว ให้ ดู หน้าร้อน ((54)の再掲)

duu cháaŋ hâi duu nâa nǎao duu sǎao hâi duu nâa rɔ́ɔn

見る 象 させる 見る 季節 寒い 見る 娘 させる見る 季節 暑い

象の品定めは冬の季節 娘の品定めは夏の季節

意味：象は（省略）、娘たちは夏になると肌が水々しくなり露出部分が多くなるから、身体つきや肌がよく分かる。（富田 1987:634）

女性像：身体つきや肌もよく見てから選ぶ

(115)と(116)から、老人になっても若い女性を好むということがわかる。若い女性は魅力的であるというのは、タイも日本も共通している。

### 5.3.5 既婚女性

現在結婚しているか否かは不明だが、結婚歴あるいは男性との交際歴があるとわかる女性である。

【タイ語のみ】

1.性格

(118)ถ่านไฟ เก่า ((69)の再掲)

thàan fai kào
炭　燃やす　古い
古い燃やしかすの炭

意味：以前の恋人や別れた夫婦　焼けぼっくいには火が付き易い。（富田 1987:771）

女性像：経験のある女性は、魅力がある

(119)กระดังงา　ลน　ไฟ　((17)の再掲)

kradaŋŋaa　lon　fai
鷹爪花　あぶる　火
火であぶった鷹爪花

意味：男を知らぬ生娘よりは既婚の、または男と性生活経験のある女の方が男の扱いがうまい。（富田 1987:78）

女性像：経験のある女性は、魅力がある

2.行動

(120)ชาย　สาม　โบสถ์　หญิง　สาม ผัว

chaai săam bòot　yĭŋ　săam phŭa
男　3　寺　女　3　夫
三寺の男、三夫の女

意味:三度出家して三度還俗することは、三回結婚する女と共に珍しく、そういう人は、信を置き難く、交際し難い人とされている。（富田 1987:546）

女性像：何回も結婚するのはよくない。

(120)では、結婚歴が多い女性を非難しているが、(118)と(119)からは、離婚者への非難が見えず、かえって魅力のある女性と捉えているところが、タイらしさである。

### 5.3.6 寡婦

夫と死別した女性である。

1.性格

【日本語】

(121)二十後家は立つが三十後家は立たぬ

意味：若妻は夫に死なれると操を立て再婚しないが、夫婦生活の喜びを知った女性は再婚することが多い。(三省堂 1978:197)

女性像： 夫婦生活を知ると男性なしではいられない。

(122)男やもめに蛆がわき、 女やもめに花が咲く((25)の再掲)

意味：男の一人者は身の回りの世話をする人がいないので汚いが、未亡人は身ぎれいにしていて男にもてる。(三省堂 2007:84)

女性像：男性よりきれい好きである

2.能力

【タイ語】

(123)แตง เถา ตาย ((36)の再掲)

tɛɛŋ thǎo taai

きゅうり 蔓 死ぬ

蔓の枯れたきゅうり

意味：หญิงม่ายที่มีอายุมากที่รอวันตาย(死ぬ日を待っている老寡婦)[18](วดี2010:58)

女性像：自分で生きることができない。

寡婦についての諺は、タイ語と日本語では明暗を分けている。タイ語は人生が終わったものという認識だが、日本語は寡婦も生きているという認識である。寡婦がきれいになってもてはやされるのは、タイ語の既婚女性の諺(119)に通じるものがあるのではないか。

### 5.3.7 むすめ

むすめは、若い女性ではなく、子としての娘の意味である。

【日本語のみ】

1.属性

(124)寵愛高じて尼にする。

意味：親が娘を可愛がるあまり婚期を逃してついに尼にしてしまう。可愛がりすぎると、却って当人を悲しませる。(三省堂 1978:158)

女性像：むすめは、可愛い。

---

[18] ( )の日本語は筆者が訳したものである。

(125)娘三人あれば身代が潰れる

意味：娘を育て上げて嫁入りさせるまでに多額の費用がかかる。(三省堂 2007:355)

女性像：むすめにはお金がかかるが、親はそれを払う。

(124)と(125)のどちらも、むすめは、親にとっていかに可愛い存在かということがわかる諺である。

### 5.3.8 妻・女房

夫と相対する、あるいは伴侶としての立場としての女性である。

1.属性

【タイ語】

(126)สามี เป็น ช้าง เท้าหน้า ภรรยา เป็น ช้าง เท้าหลัง ((27)の再掲)

sǎamii pen cháaŋ tháo nâa phanrayaa pen cháaŋtháo lǎŋ

夫 は 象 足 前 妻 は 象 足 後ろ

夫は象の前足、妻は象の後足

意味：家庭では夫唱婦随(富田 1987:541)

女性像：夫に従うもの

(127)หนู ตก ถังข้าวสาร ((78)の再掲)

nǔu tòk thǎŋkhâaosǎan

鼠 落ちる 米びつ

米びつに落ちた鼠

意味：鼠が米びつに落ち込めば居ながらにして食うに困らぬように、貧乏な男が大金持ちの娘と結婚して左うちわで暮らせるようになること。(富田 1987:653)

女性像：金持ちの娘はいい

【日本語】

(128)雌鶏歌えば家滅ぶ((89)の再掲)

意味：妻がいろいろと口出しするようになった家は、それが禍となって遂には滅んでしまう。(三省堂 2007:359)

女性像：妻は口出しせずに、夫に従うべきもの

妻は夫に従うべきものという価値観は、タイ語と日本語に共通している。妻に期待されている役割は、夫に従ってついて行くということである。

2.性格

【タイ語】

(129) ช้างสาร　งูเห่า　ข้าเก่า　เมียรัก　ไว้ใจ　นัก　ไม่　ได้ ((52)の再掲)
cháaŋsǎan ŋuuhào khâakào miarák wáicai nák mâi dâi
巨象　コブラ　老僕　愛妻　信用　厚い　ないできる
巨象、毒蛇、老僕、愛妻は、厚く信用できない。

女性像：妻であっても裏切る可能性がある

(130) เสียทอง　เท่า　หัว　ไม่　ยอม　เสีย ผัว　ให้　ใคร ((4)の再掲)
sǐa thɔɔŋ thâo hǔa mâi yɔɔm sǐa phǔa hâi khrai
失う 金　と同じ 頭 ない 認める 失う 夫 あげる 誰か
頭と同じ金を失っても(愛する)夫は誰にもあげない。

女性像：正妻は強い

(131) ร้อย　ชู้　ก็　ไม่　สู้　เมีย　คนเดียว ((40)の再掲)
rɔ́ɔi chúu kɔ̂ʔ mâi sûu mia khon diao
百　妾も　ない　戦う　妻　ひとり
百人の妾も一人の正妻と戦えない。

女性像：正妻は強い

(132) รักเมียเสียญาติ
rák mia sǐa yâat
愛す　妻　失う　親戚
妻を愛すれば親族を失う。

意味：妻を愛しすぎるととかく妻の言のみを信じ、自分の親兄弟と不和になることがあり得る。(富田 1987:1499)

女性像：妻の影響力は大きい。

【日本語】

(133) 女房と畳は新しい方がよい。((56)の再掲)

意味:畳は新しい方が清々しくて気持ちがよいように、女房も新しい方がよい。(三省堂 2007:302)

女性像：新鮮な方がよい

(134) 女房と味噌は古いほどよい（女房と鍋釜は古いほどよい）((57)の再掲)

意味：女房は長年連れ添うほど世帯のやりくりがうまくなり、ありがたみが出てくる。(尚学図書 1986:932)

女性像：なじみがある方がよい

(135) 女房の悪いは六十年の不作（悪妻は百年の不作）((28)の再掲)

意味：女房が良くないと、一生不幸である。(三省堂 2007:303)

女性像：悪い女は最悪である

(129)から(130)のタイ語の諺は、妻の強さを示すものばかりである。(129)は夫の妻に対する恐れが感じられる。同様のものは、後述の（138）にも見られる。日本語は、それに比べて呑気である。(135)も愚痴をこぼしながら、その悪妻と添い遂げるということである。

3. 行動

【タイ語】

(136) ผัว　หาบ　เมีย　คอน (ชายหาบหญิงคอน)

phǔa hàap mia khɔɔn

夫　両天秤　妻　片天秤

夫は両天秤、女房は片天秤で担ぐ。

意味：夫婦で担げば（暑さも涼し）夫婦協力して稼げば苦にならない。（富田 1987：1159）

女性像：女房は夫と協力してよく働く

(137) ตื่น　ก่อน นอน　หลัง ((29) の再掲)

ùɯn kɔ̀ɔn nɔɔn　lǎŋ

起きる 先に 寝る　後で

先に起き、後に寝る。

意味：夫より先に目を覚まし、後から寝よ（昔の婦女訓）（富田 1987：733）

女性像：妻は、夫のために働くもの

(138) ฝนตก　อย่า เชื่อ　ดาว　มี　เมีย　สาว　อย่าไว้ใจ　แม่ยาย　((67) の再掲)

fǒntòk yàa chɯ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai　mɛ̂ɛyaai

雨　降る　しないで　信用　星　持つ　妻　若い女性　しないで　心を許す　岳母

雨は降る。星は信用するな。若い妻を持てば、岳母に心を許すな。

意味：星は（省略）、若い美人の女房を持てば、女房の母親は金に目がくらんで、ほかの金持ちの男に再婚させようと企むかもしれない。（富田 1987：1190）

女性像：妻となっても、夫より母親の指示に従って夫に背く。

【日本語】

(139) 知らぬは亭主ばかりなり

意味：妻の不貞を知らないのは、その亭主だけである。（三省堂 2007：226）

女性像：夫に知られないように浮気ができる。

(140) 亭主の好きな赤烏帽子

意味：赤烏帽子をかぶるような異様な事でも、夫の好むことなら妻は同調する。（三省堂 2007：273）

女性像：何でも夫に同調する。

行動では、タイと日本とともに、夫に協力的な妻と裏切る妻の正反対の諺があった。

4. 能力

【タイ語のみ】

(141) เสน่ห์　ปลาย　จวัก　ผัว　รัก　จน　ตาย ((3) の再掲)

sanèe plaai cawàk phǔa rák con taai

魅力　先　柄杓　夫　愛す まで　死ぬ

柄杓の先の魅力を夫は死ぬまで愛する。

意味：女房が匙加減一つで料理をおいしくしてくれる魅力を夫は死ぬまで愛し続けるものだ。（富田 1987：1842）

女性像：料理の上手なことがよい。

5.外見

【日本語のみ】

(142)女は氏無くして玉の輿に乗る（玉の輿に乗る）

意味：家柄が卑しくても、女は美しければ貴人の目に留り、富貴の身になれる。(三省堂 1978:41)

女性像：容貌がよければ、いいことがある。

妻については、タイ語の方が妻との関係の緊密さが伺える。妻も夫も伴侶を失うことを心配する諺がある。また、(136)のように妻は夫と一緒に働き、(141）のように夫においしい料理を作る。これらの諺は、庶民的である。その一方老僕がいる（129）や妾に負けまいとする（130）は、庶民ではない。ここにも 5.3.4 の未婚女性と同様、階層が現われている。日本語は、妻の声がない。夫も単に論評しているに過ぎず、妻に不満があっても離婚につながる危機感は感じられない。

### 5.3.9 妾

妻のある男性と交際あるいは一緒に生活する女性である。

【タイ語のみ】

1.属性

(143)กิน น้ำ ใต้ ศอก

kin nám tâi sɔ̀ɔk

飲む 水 下 ひじ

ひじの下の水を飲む。

意味：おこぼれを頂戴する。(妾は正妻と同等ではない。)(富田 1987:94)

女性像：妾の立場は弱い。

(144)ร้อย ชู้ ก็ ไม่ สู้ เมีย คนเดียว ((40)の再掲)

rɔ́ɔi chúu kɔ̂ʔ mâi sûu mia khon diao

百 妾も ない 戦う 妻 ひとり

百人の妾も一人の正妻と戦えない。

女性像：妾の立場は弱い。

いずれも妾という立場はつらいものであるという主張である。日本にも妾はいるが、本研究には現れなかった。

### 5.3.10 嫁

家族の成員として夫のみならず、夫の家族との関係もある女性である。

【日本語のみ】

1.属性

(145)秋茄子は嫁に食わすな((30)の再掲)

意味：ⅰ秋茄子のようにおいしいものは、嫁に食べさせたくない。(姑の嫁いびり)

ⅱ種子がないので子供に恵まれなくなるから（俗信）(三省堂 2007:3)

女性像：ⅰ嫁は夫の家族にいじめられるもの

ⅱ嫁は子供を産むもの

(146)小姑一人は鬼千匹に当たる((31)の再掲)

意味：嫁にとって、小姑は一人でも鬼千匹に匹敵するほど厄介で心を苦しめるものである。(三省堂 2007:186)

女性像：嫁は、夫の家族にいじめられるもの

(147)婿は座敷から貰え。嫁は庭から貰え。

意味:婿は家柄が上のところから、嫁は家柄が下のところからもらうのがよい。低い家柄であれば、嫁が婚家を馬鹿にしたりしなくて扱いやすい。(金子 2004a:228)

女性像：嫁は、従順であるのがよい

(145)は、二通りの解釈がある。ⅰは(146)と同様いじめられる立場を言っているものである。ⅱは、嫁は子供を産むことを期待されているということである。どの諺からも、家族の成員としての嫁の位置と非力さがわかる。(147)は、嫁の品定めであるが、嫁個人ではなく嫁の家に焦点を当てているところが、タイの未婚女性にある(112)や(117)の諺と違う点である。タイ語にも嫁にあたる ลูกสะใภ้ という言葉があるが、諺にはまったく登場しない。これは、タイと日本の婚姻形態の違いが影響するものと考えられるが、このことは５．４の社会背景の章で述べる。

### 5.3.11 母

子を持つ親としての女性である。

1.属性

【タイ語のみ】

(148)ฝนตก อย่า เชื่อ ดาว มี เมีย สาว อย่าไว้ใจ แม่ยาย ((32)の再掲)

fǒntòk yàa chʉ̂a daao mii mia sǎao yàa wáicai mêɛyaai

雨 降る しないで 信用 星 持つ 妻 若い女性 しないで 心を許す 岳母

雨は降る。星は信用するな。若い妻を持てば、岳母に心を許すな。

意味：星は（省略)、若い美人の女房を持てば、女房の母親は金に目がくらんで、ほかの金持ちの男に再婚させようと企むかもしれない。(富田 1987:1190)

女性像：母親は娘に影響力がある。

(149) ดู ช้าง ให้ ดู หาง ดู นาง ให้ ดู แม่ ดู ให้ แน่ ให้ ดู ยาย((38)の再掲)

duu cháaŋ hâi duu hǎaŋ duu naaŋ hâi duu mêɛ duu hâi nêɛ hâi duu yaai

見る 象 させる 見る 尾 見る 娘させる 見る 母 見るさせる 確実にさせる 見る 祖母

象の品定めをするには尻尾を見よ。娘を見るにはその母を見よ。もっと確実に見定めたければ祖母を見よ。

女性像：母親は娘に影響力がある。

2.行動

【日本語のみ】

(150)孟母三遷の教え((14)の再掲)

意味：子どもの教育のために良い環境を選ぶ。(三省堂 1978:238)

女性像：母親は子どものために良かれと行動する。

母親は、タイ語では、娘に影響力のある存在であり、時に娘を自分の意思に従わせるが、日本語は子供のことを考えて行動する存在として現われている。

## ５．４　社会背景

どのような諺が生まれるかは、その社会背景の影響を受けると考える。タイ語も日本語も立場で一番諺の数が多かった⑧妻・女房と、タイ語で多かった④未婚女性の立場に焦点を当て、関係すると考えられる婚姻に関する慣習と階層について考察する。

### 5.4.1 婚姻形態

婚姻の形態は、現代においてはタイでも日本でも様変わりしている。また、都市部と地方では、両国とも事情が違う場合がある。しかし諺に反映している婚姻形態は、伝統社会の形態であるから、以前の婚姻形態について考える。

１．タイ

ピア・アヌマーン(1984:143)は、「タイ固有の慣習は、男性側が女性側の家へ行って暮らすのであり、女性の側が男性の家へ行って暮すものではない」とタイの婚姻に関する諸慣習について述べている。そして、男性は一度結婚をして家を出たら、自分の実家に戻って、そこで再び暮らすことはできない。また、女性が男性の家へ行って暮すようなことは、女性にとって、とてもきまりの悪いことと見なされていると述べている。そこで、配偶者選びは、女性の側に選択権があり、男性はあくまで懇請する側の人間として、女性からの愛情を求めることになる。南部の地域では、男性が女性の親の家へ出向いて、親に働きぶりを示す「志願婿」と呼ばれる慣行があり、タイ・ルー族には、結婚する前

に、男性が女性の家へ行って義父母のために労働奉仕をしなければならないという慣行があったと述べている。このように男性が自身の体力を示さなければならなかったのは、生活の基盤が農業だったからであり、女性側の関心は、その男性が勤勉で、野良仕事ができるかという点に尽きるというためであったと説明している。ピア・アヌマーンの記述は、まさしく本稿第 1 章で述べたタイ語の新郎“เจ้าบ่าว” の”บ่าว”の意味である使用人，召使そのものである。

それでは、結婚は女性の家と婿となる男性の結び付きなのかというと、ピア・アヌマーン(1984:142)は、「自分の配偶者を選ぶということは、本来、男女双方の親たちが介入する事柄ではない」と述べている。つまり、相手の顔も見ないで結婚することがあったとしても、それは、あくまでも当の女性と男性の問題である。親は二人の間に愛情があることがわかれば、二人が一緒に暮らして行けると見て、結婚させると説明している。

ピア・アヌマーン(1984)の記述により、結婚に関しては、男性より女性の方が優位な立場にいると言えると考える。男性は、伴侶となる女性の品定めをして、さらに気に入った女性が見つかれば、結婚を懇願しなければならない。諺に④未婚女性に関するものが多いのは、そのためであると考えられる。また、できるだけ楽をしたいというのは、人の常であるから、身分の高い女性や金持ちの女性に対する憧れが強いのも女性側の経済状況に人生がかかっているからと言える。さらに結婚したのちも、妻の裏切りを心配する諺があるのも、妻に離縁されると出ていくのは、男性の方であるからということが考えられる。離縁された男性は、新しい妻を求めてほかの土地へ行かなければならない。つまり、タイの伝統社会では、夫は妻とうまくいかなくなれば、妻の家を出て別の土地へ行き、そこで新しく妻を得て、根を下ろすことになる。妻は、新たに来る男性を迎え入れる。妻は自分の土地から出ることはないのである。まさしく

(151)ชาย ข้าวเปลือก หญิง ข้าวสาร ((2)の再掲)
chaai khâaoplùak yǐŋ khâaosǎan
男 籾 女 白米
男は籾で、女は白米
意味：男はどこへ行っても根を生やす（子どもを産ませる）ことができるが、女は行動範囲が制限されている。女の方が男よりも美しいが弱いから男は女を守ってやるべき。（富田 1987:545）

の諺のとおりである。

婚姻形態から言えることは、タイの妻には、姑との軋轢の問題はなかったということである。ピア・アヌマーン(1984)は、嫁と姑の問題が出るのは後代になって、男性の家に行って暮す慣習が生まれてからであり、伝統社会では、婿と義父の関係に問題が多かったと述べている。それが嫁に関する諺がない理由であると考える。また、姑について

も同様である。タイ語で姑に当たるような言葉はない。姑をタイ語で表現すると、“แม่สามี”つまり夫の母である。親戚に関する呼称は、必要性と関係があると考えられる。例えば、祖父と祖母については、タイ語には、父方の祖父母と母方の祖父母とそれぞれ別の呼称がある。使う頻度が多く、混乱を避けるために父方と母方をはっきりさせる必要があるということである。しかし、姑に当たる呼称がないということは、使う必要性がない、つまり使う頻度が少なかったと言える。妻は、夫の母と接する機会は多くなかったと考えられる。

以上のことから、タイの女性は、結婚に際しては、男性からの求婚の過程で恋愛を楽しむことができ、結婚した後も実家で実の両親と共に過ごすことで、娘時代の気分そのままでいられたということである。すなわち、新婦を意味する”เจ้าสาว”の”สาว”の意味「若い女性」そのままに娘気分でいられたと言える。

２．日本

日本の婚姻形態について、渡辺(1995)は、「家」の制度を基礎としており、「家の制度のもとでの結婚は、個人と個人の間ではなく、家と家の間で行われた。女の側からは「嫁入り」、男の側からは「嫁取り」という形で行われた。女は、結婚によって、自分の生家を出て、男の側の家に入った」(p. 67)と説明している。戸籍も生家の戸籍から男性の側の戸籍に移ったと述べている。戸籍の記載について、広井(1999：121)は、「1871 年の戸籍法が定めた戸籍書式には、「戸主、高祖父母　曾祖父母　祖父母　父母　妻　子　婦　孫（以下略)」という記入の順番が記されており、戸主の子の妻、すなわち婦は嫁という意味だった」と述べている。つまり、戸主の妻だけ妻と呼ばれ、嫁は別の立場として存在していたということである。

女性は、タイとは反対に男性の家に入る側である。しかもタイの場合、結婚はあくまで妻と夫の二人の問題であったが、日本の場合は、二人だけの問題ではない。渡辺(1995)は、女性を迎えるのは、夫の親族だけではなく夫の家を取り巻く「近所」や「村」も、地域の新しい成員になる嫁を迎える側であると述べている。そして、近所や村の女まで姑になって、新来の嫁を批評するとしている。渡辺(1991)は、家族に関する諺を収集したが、嫁・姑の意味項目が親子、夫婦につぎ 3 番目に多く、嫁と姑では、嫁の方がはるかに多く諺的批評の対象になっていると述べている。本研究には、姑に関する諺が出なかったが、日本語は、添付資料２に見られるように、実際には姑について述べた諺はある。そのほとんどが嫁との軋轢を言及したものであり、逆に言えばそれだけ嫁はつらい立場に置かれていたと考えられる。

結婚が家と家の間で行われたということは、日本の場合、結婚は妻と夫となる二人だけの問題ではなく、双方の両親から親戚一同がこれに関わってくるということである。夫となる男性と妻になる女性の希望だけで婚姻は成立しない。嫁の品定めはあっても、男性自身が妻となる女性についてあれこれ考える諺がなく、諺からは若い男女が結婚前に恋愛をする様子が伺えない。タイの諺と比較して、男女がお互いに相手に関心を持つ度合が低いのは、恋愛の自由度の低さが理由であると考えられる。しかし、家の制度に組み込まれてしまうので、夫婦となった後簡単に離縁はできない。そこで、夫が妻の裏切りを心配することもないが、悪い女房だとわかっても離縁することもなく一生添い遂げることになる。

以上のことから、日本の女性の場合は、結婚までの過程で恋愛をする自由はなく、また、結婚は人生を大きく変えるものであり、生家とは違った厳しい視線を受けながらの生活が待っているということである。

### 5.4.2 階層

諺に現れる女性に階層の違いが見られる。階層は、それぞれの社会にどのように存在していたのかを考える。

1.タイ

Komin(1978)は、タイ社会のシステムは、恩恵の関係と権力による関係の 2 種類の階層構造であると述べている。また、พิมพ์พรรณ(1999)は、古語の諺を調査し、女性に教えるための諺を見つけたが、それらの諺の対象は、二つの階層の女性に分けられると述べている。すなわち上流階級の女性と一般的な女性である。ประพันธ์(2012)もタイには上流、エリート、そして下層の 3 つの階層があると述べている。この階層は、サクディナー制度[19]の地位が戻って来ていると説明している。現在でも政治抗争の場で「特権階級」と「平民」という言葉が使われることがある。すなわち、タイの場合上流層は、富裕層である。上流階級の女性が次の(152)(153)(154)の諺に現れる「天の花」や「月」のように遥かに望むものとして諺に表される理由は、タイの階層社会にあると考える。

(152)กระต่าย หมาย จันทร์ ((66)の再掲)
kratàai mǎai can
ウサギ　望む　月
ウサギが月を手に入れたいと望む
意味：下賤な男が高貴な女性を妻にしたいと思う。(富田 1987:87)

[19]タイ語は ศักดินา 。アユタヤ時代からあった国王より名目的に賜る田地の面積で、その人の社会的地位を表す制度。1932 年の民主革命で廃止された。(富田 1987:1695)

(153) สอย ดอก ฟ้า　((77)の再掲)
sɔ̌ɔi dɔ̀ɔk fáa
もぎ取る　花　天
天の花を竿でもぎ取ろうとする
意味：自分より遙かに身分の高い女性を妻にしようと努める。(富田 1987:1761)

(154) ดอก ฟ้า　กับ　หมา　วัด ((72)の再掲)
dɔ̀ɔk fáa　kàp　mǎa　wát
花　天　と　犬　寺
天の花と寺犬
意味：美しくやんごとなき女性と下賤な男(富田 1987:604)

2. 日本

日本にも上の階層へ上がることを示している諺がある。次の(155)である。

(152)女は氏無くして玉の輿に乗る((142)の再掲)

意味：家柄が卑しくても、女は美しければ貴人の目に留り、富貴の身になれる(三省堂 1978:41)

(155)は、タイと反対に女性が上へ上がるという諺である。日本も江戸時代に士農工商という階層制度があった。しかし武士と農民が上の階層だったが、江戸時代の途中からは、最下層の商人が経済力を持っていた。人々が憧れるのは、豊かな生活であるから、階層が上でも経済力がなければ、憧れは生まれなかったと考えられる。(155)も説明にあるように、注目されているのは、「富貴の身」つまり豊かな生活である。

その他に (156)のような諺があるが、これは階層というより家柄を問題にしている。

(156)婿は座敷から貰え。嫁は庭から貰え。((147)の再掲)

意味:婿は家柄が上のところから、嫁は家柄が下のところからもらうのがよい。低い家柄であれば、嫁が婚家を馬鹿にしたりしなくて扱いやすい。(金子 2004a:228)

家長の地位や経済力によって決まる家柄の上下は、どの階層にもあり、この(156)の諺は階層を越えるという意味ではない。日本は、5.4.1 の 2.で述べたとおり、家と家の結びつきであるから、家柄が大きな問題になるということである。

## ５．５　まとめ

最後に考察の結果をまとめる。女性の役割として、社会的立場で一番注目されているのは、タイ語も日本語も共通して伴侶としての⑧妻・女房である。タイ語では将来の伴侶となる④未婚女性にも注目しているが、それは、男性側が女性の家に入るというタイ伝統的な婚姻形態にも原因があると考えられる。妻とは夫に従うものという考え方は、日本とタイで共通のものである。

⑧妻・女房の立場では、ⓑ性格への注目度が高い。タイは、妻の強さを示している諺

が多いが、日本の妻に対する夫の言い分は、タイの夫の真剣さに比べると単なる論評と言ってよい。これは、日本は夫婦が家の制度に取り込まれているので、自分たちの意志だけでは、どうしようもなかったことが理由と考えられる。⑩嫁が日本語にはあり、タイ語にはなかったのは、タイの伝統的な婚姻形態が嫁入婚ではないということが理由である。

女性の捉え方についても違いがあった。タイ語は個々の女性を見ているが、日本語は、全体として女性を見ている傾向にある。タイ語は、自分に関わりのない第三者には全く無関心であるという、タイ人の人間関係の捉え方が影響していると考えられる。つまり、諺の語り手が、自分に関わりのあった人に関する逸話を語っているので、一般論ではない諺が生まれたと考えられるからである。日本語の諺は、一般論化した女性一般の諺が全体の半数近くあることでも、全体を見ていると言える。以上が考察のまとめである。

# 第 6 章　おわりに

本研究は、女性に対する認識の違いをタイ語と日本語の諺を比較することによって明らかにすることが目的であった。タイと日本では、女性の役割に違いに感じられたからである。つまり、タイの女性の方が、結婚に際して日本の女性より自由である印象があった。諺を選んだ理由は、諺にはその民族の伝統的な価値観が凝縮しており、違いを探る手掛かりとして適当だと考えたからである。

諺は、日本語もタイ語も金言と格言、慣用句などの類似の表現がある。そこで、諺の範囲を、民衆がその体験によってみずから得た教訓と言えるもので何らかの価値観を示したものとすることにした。

比較の方法は、まず、タイ語と日本語の諺集をそれぞれ 5 冊取り上げ、各諺集に記載された女性に関する諺を収集した。1 冊ではなく 5 冊にしたのは、1 冊では編者による偏りがある可能性もあるので、偏りを避けるためと、一般によく知られた諺に限定する方がよいと判断したためである。次に収集した諺からタイ語は 3 冊以上、日本語は 4 冊以上に掲載された諺を分析の対象とした。タイ語と日本語で冊数を合せなかったのは、対象とする諺数が同程度の方が良いと判断したためである。タイ語は 31 件、日本語は 34 件の諺が分析の対象になった。対象とした諺を、妻・女房、娘、嫁など 12 項目の社会的立場に分類し、さらにそれぞれの立場ごとに属性、性格など 5 項目の認識の諸相に分類して、タイ語と日本語の諺の傾向の類似点と相違点を探した。

その結果、まず女性の捉え方について違いがあった。タイ語は個々の女性を見ているが、日本語は、全体として女性を見ている傾向にある。タイ語は、自分に関わりのない第三者には全く無関心であるという、タイ人の人間関係の捉え方が影響していると考えられる。つまり諺は、語り手が関心のある特定の人物についての逸話から生まれるということである。タイの諺に個別性がある理由は、人間関係の捉え方に一因があると考えられる。日本語の諺は、一般論化した女性一般の諺が全体の半数近くある。そのことでも、全体化して見ていると言える。

社会的立場で一番注目されているのは、タイ語も日本語も共通して伴侶しての妻であった。生涯の伴侶というのは、女性の役割として一番重要であると言える。タイ語では将来の伴侶となる未婚女性にも注目している。それは男性が妻を選ぶ自由と必要性があったからと言える。逆に日本にないということは、日本の男性にはその自由がなかったということである。

妻については、妻とは夫に従うものという考え方は、日本とタイで共通であった。
しかし、タイは、夫が妻を恐れたり、正妻の強さを示しているなど妻の存在感のある諺があるが、日本はタイのように妻について真剣に考えている諺がない。日本語には嫁に

ついての諺があるが、タイにはなかった。これらは、伝統的な婚姻形態がタイは男性が女性の家に入るという形態であり、日本は結婚が夫婦だけの問題でなく、家と家の結びつきであり、嫁入婚であるという形態にも原因があると考えられる。

タイの女性について言えば、結婚までは男性に注目され、結婚しても姑との軋轢の心配もなく、娘時代と同様実家の両親のところで暮らすことができるのである。つまり、新婦を意味する"เจ้าสาว"の"สาว"の意味「若い女性」そのままに娘気分でいられると言える。同じ妻であっても、結婚すると実家を出なければならない日本の女性とは、だいぶ違う環境である。妻の役割としても、男性から期待されることは、タイと日本では違うはずである。やはり、タイと日本の女性の役割には、違いがあるということである。

タイ語の諺を概観してきたが、諷喩の諺は特に意味の理解が難しい。現代のタイ社会でも諺集の説明にあるように諺が理解されているのだろうか。喩えている動物に対するイメージは、変わっていないのだろうか。現在、諺が実際にどう伝承されているか調べることは、現在のタイ社会を知る上で参考になると考える。今後の課題である。

また、本研究では、対象とする諺集を 5 冊にしたが、先行研究の鄭(2004)の 19 冊にはとても及ばない。さらに諺集を増やして諺を収集したら、また見つかることがあるかもしれないと考える。それも今後の課題である。

# 参考文献・調査資料

[参考文献]

秋元美晴 (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための語彙12』アルク

綾部裕子 (1990)「日本とタイの諺における動物のイメージ」『筑波大学 地域研究』第 8 号, pp.197-212 筑波大学地域研究研究科

綾部裕子・プラサート ヤムクリンフング (1992)「諺の日タイ比較－親子と女について－」『言論文化研究』第 13 号, pp.219-231 筑波大学

岩城雄次郎・斉藤スワニー (1998)『タイ語ことわざ用法辞典』大学書林

浮田三郎 (1988)「日本語と現代ギリシャ語(方言)の諺対照比較研究(2)－素材「女」の見られる諺を中心に－」『広島大学教育学部紀要』第 2 部, 第 37 号, pp.301-309 広島大学

奥津文夫 (1998)「日英ことわざ比較－男女・親子に関することわざを中心に－」『学習院大学言語共同研究所紀要』第 22 号, pp.31-39 学習院大学言語共同研究所

金子武雄 (2004)『日本のことわざ』ebook 版, 社会思想社

金宗澤 (1983)「韓国人の伝統的な女性観－俗諺・俗談を通して－」『鹿児島経済大学社会学部論集』(山中美由紀・金世煥訳)第 1 巻, 第 3 号, pp.87-104 鹿児島国際大学

金秀眞 (2001)「日韓両言語における諺の対照比較研究－男性観と女性観を巡って－」『国際協力研究誌』第 8 巻, 第 1 号, pp.33-50 広島大学大学院国際協力研究科

北村孝一 (1996)「ことわざとは何か」『月刊言語』7 月号, pp.48 -49 大修館書店

新村出 (1998)『広辞苑』第 5 版 岩波書店

田中寛 (2004)『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

鄭芝淑 (2004)「ことわざに関する対照研究の新しい試み－レベル別ことわざリストの作成とその応用－」『多元文化』第 4 号, pp.105-116 名古屋大学国際言語文化研究科

冨田竹二郎 (1987)『タイ日辞典』養徳社

外山滋比古 (1991)「日本のことわざ・英語のことわざ」『日本語学』12 月号, pp.4-10 明治書院

広井多鶴子 (1999) ｢｢婦人｣と｢女性｣－ことばの歴史社会学｣『群馬女子短期大学紀要』第 25 号 pp.121-136 群馬女子短期大学

ピア アヌマーン ラーチャトン・森幹男編訳 (1984)『タイ民衆生活誌(2)－誕生・結婚・死－』井村文化事業社

ヘンリ ホームズ・スチヤーダー タントンタウィー (2000)『タイ人と働く―ヒエラルキー的社会と気配りの世界』(末廣昭訳) めこん

松村明 (2006)『大辞林』第 3 版 三省堂

宮地裕 (1985)「慣用句の周辺－連語・ことわざ・複合語－」『日本語学』1 月号, pp.62-75 明治書院

渡辺友左 (1991)「家族と諺」『日本語学』12 月号, pp.11-20 明治書院

渡辺友左 (1995)『ことわざに表れた性差別－男女のことわざ事典』南雲堂

ประพันธ์ อภิวงค์.(2012).บทความเชิงวิจารณ์.คุณนายตื่นสาย : ความหมายเชิงเพศสภาวะและชนชั้นทางสังคมไทย.
http://www2.feu.ac.th/admin/pr/newscontrol/atts/D20120523104402.pdf ( สืบค้นขอมูลเมื่อ15กค2556)
พิมพ์พรรณ โพบูลย์หวังเจริญ. (1999).วรรณกรรมสุภาษิตสำหรับสอนผู้หญิง . *ศิลปากรปีที่42 ฉบับที่1* ,ม.ค-ก.พ1999,112-121.
พิทยา ว่องกุล.(1990).สุภาษิตสอนหญิงฉบับใหม่ ผลงานของสุนทรภู่จริงหรือ ? .*วิทยาจารย์ ปี ที่88 ฉบับที่1*, ม.ค1990,62-68.
ภาวิตา สัมมาสติ.(1984).มองค่านิยมของคนไทยจากสำนวนและภาษิต. *จันทรเกษม ฉบับที่176* ,ม.ค-ก.พ 1984,43-53.
ราชบัณฑิตยสถาน. (บรรณาธิการ). (1999).พจนานุกรมไทย (พิมพ์ครั้งที่ 1 ).กรุงเทพฯ;สำนักพิมพ์นานมีบุ๊คพับลิเคชั่นส์
วดี ชาติอุทิศ. (บรรณาธิการ). (2010).*๑๗๒๔สำนวนสุภาษิต คำพังเพย* .กรุงเทพฯ; สำนักพิมพ์ดวงกมลพับลิชชิ่ง.
ศิริรัตน์ ทวีทรัพย์. (บรรณาธิการ). (2012). *ประชุมสุภาษิตสอนหญิง* .กรุงเทพฯ;บริษัทเอดิสันเพรสโพรดักส์จำกัด
เอกรัตน์ อุดมพร. (บรรณาธิการ). (2002).*๒๐๐๐สุภาษิตไทย*.กรุงเทพฯ; ห้างหุ้นส่วนจำกัด เรืองแสงการพิมพ์.
Komin Suntaree.(1998). *The World View Through Thai Value Systems.* In (eds.),Traditional and Changing Thai World View.Chulalongkorn University Social Reseach Institute

[調査資料]
金子武雄（2004a）『日本のことわざ』ebook 版，社会思想社
金子武雄（2004b）『続　日本のことわざ』ebook 版，社会思想社
三省堂編集所編(1978)『故事ことわざ辞典』三省堂
三省堂編集所編(2007)『ことわざ決まり文句辞典』三省堂
尚学図書(1986)『故事ことわざの辞典』小学館
鈴木棣三編(1992)『故事ことわざ辞典』創拓社
พงษ์จันทร์ ศรัทธา. (บรรณาธิการ).(1975).*สำนวนไทยและคำพังเพย(สุภาษิต)* . กรุงเทพฯ;อมรการพิมพ์.
ยิ่งลักษณ์ งามดี. (บรรณาธิการ). (2005).*สุภาษิต คำพังเพยและสำนวนไทย* .กรุงเทพฯ; ห้างหุ้นส่วนจำกัด ทิพยวิสุทธิ์.
ราชบัณฑิตยสถาน. (บรรณาธิการ). (2002).*ภาษิต คำพังเพย สำนวนไทย* (พิมพ์ครั้งที่11ฉบับแก้ไขเพิ่มเติม).นนทบุรี;สหมิตรพริ้นติ้ง
วดี ชาติอุทิศ. (บรรณาธิการ). (2010).*๑๗๒๔สำนวนสุภาษิต คำพังเพย* .กรุงเทพฯ; สำนักพิมพ์ ดวงกมลพับลิชชิ่ง.
เอกรัตน์ อุดมพร. (บรรณาธิการ). (2002).*๒๐๐๐สุภาษิตไทย*.กรุงเทพฯ; ห้างหุ้นส่วนจำกัด เรืองแสงการพิมพ์.

謝辞

本稿執筆にあたり、主査のカノックワン・ラオハブラナキット・片桐先生には、たくさんの有益なアドバイスをいただき、また終始温かい励ましをいただいた。修了論文ゼミ指導教官の萩原孝恵先生には、論文の書き方についていろいろとご指導をいただいた。また、ウォラウット・チラソンバット先生と池谷清美先生には、内容についてアドバイスをいただいた。先生方に深くお礼を申し上げたい。

また、学習院大学の北村孝一先生には、貴重な資料を頂戴した。ここに記して心より感謝したい。

川上美芽子さんには、論文収集にあたって多大なるご協力をいただいた。改めて感謝を表したい。

日本語講座の大学院生のパイリン・チャロンさんとシシャノック・ホンティッパラットさんには、タイ語のチェックとタイ語の諺についてのアドバイスをいただいた。また、香山恒毅さんと石川聖子さんには、有益なコメントをいただいた。ここに感謝を表したい。

2013 年 11 月 20 日

須田ユリ